

JANOME

■ 型式 BL34

クリーンバス ユニット

取扱説明書

屋内設置専用

24時間フレッシュお風呂、一日中、いつでも、快適湯



このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書は必ずお読みください。
本製品は、取扱説明書にしたがって正しくお使いください。
特に「安全上のお知らせ」は、安全に関する重要な内容ですので、ご使用前に必ずお読みください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- 保証書は必ず「お買い上げ日、販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。
- 正しい設置および正しい使いかたをされなかった場合の製品の故障・事故について、当社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

目 次

安全上のお知らせ・・・・・・・・・・1～9

[本体表示] ----- 1

[安全上のご注意] ----- 2

各部のなまえとはたらき・・・・・・・・10～11

[本体・吸排ユニット] ----- 10

[操作パネル] ----- 11

使用上のご注意・・・・・・・・・・12～13

[正しくお使いいただくためのご注意] --- 12

[浴水の水質維持のためのご注意] ----- 13

運転のしかた・・・・・・・・・・14～15

時計の合わせかた・・・・・・・・・・16～17

湯温の設定・・・・・・・・・・18～19

お風呂に入るとき・出るとき・・20～21

[[「ジェット」キーの使いかた] ----- 20

[[「アフタークリーン」キーの使いかた] -- 21

お手入れのしかた・・・・・・・・・・22～43

[お手入れの時期と内容] ----- 22

[プレフィルターの洗浄と交換] ----- 24

[浴室内のお手入れ] ----- 25

[自動熱洗浄] ----- 26

[浴水交換] ----- 28

[管路洗浄] ----- 32

[ろ過材の洗浄と交換] ----- 36

[ダブル制菌管ユニットの清掃と交換] --- 38

[漏電保護リレーの点検] ----- 42

[長期間で使用にならないとき] ----- 43

こんなときには・・・・・・・・・・44～50

[チェックメッセージが表示された] ----- 44

[漏電保護リレーの赤ランプ点灯] ----- 47

[停電があった] ----- 47

[浴水が冷たい・温まらない・
温まりすぎる] ----- 48

[2 日経過しても、
「熱洗浄」ランプが点灯しない] --- 49

[3 週間経過しても、
「浴水交換」ランプが点灯しない] --- 49

[3 週間経過する前に、
「浴水交換」ランプが点灯した] --- 49

[[「浴水交換」ランプ点灯中に浴水交換を
行ったが、ランプが点灯したままである] -- 49

[ときどき運転が止まる] ----- 49

[ご家庭のアンペアブレーカーや
配線用遮断器がときどき切れる] ----- 50

交換部品のお知らせ・・・・・・・・・・51

仕様・・・・・・・・・・52

アフターサービスについて

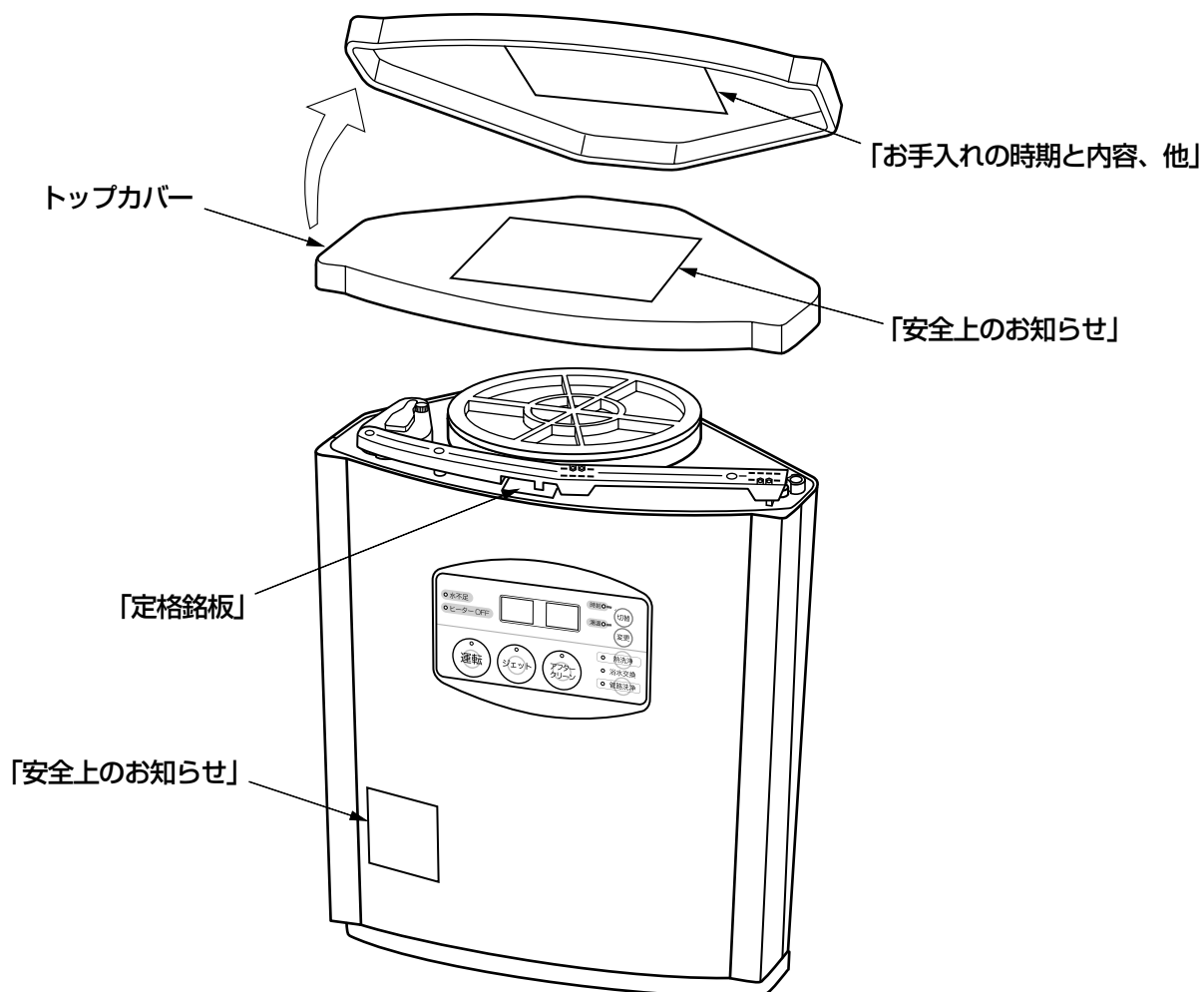
ご注意

この取扱説明書は各機種共用で使用しているため、一部図など内容が異なる場合がありますのでご了承ください。

安全上のお知らせ

【本体表示】

製品本体にも安全に関する注意事項などを表示しています。この「取扱説明書」とともによくお読みください。



[安全上のご注意]

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

・・・・・・必ずお守りください・・・・・・

注意事項はいろいろな表示をして説明しています。表示の意味は下記を参照してください。

● 危害・損害の程度を表わす表示

注意事項を無視して誤った取り扱いを行ったときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分しています。

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

● 危険の内容や回避方法を表わす表示

お守りいただく注意事項の内容の種類を、次の図記号で区分しています。

△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。	
	注意してください。(一般的な注意)
⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。	
	絶対に行わないでください。(一般的な禁止)
	分解（改造・修理）しないでください。
	手を触れないでください。(接触禁止)
	ぬれた手で触れないでください。
	水にぬらさないでください。
● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。	
	必ず指示にしたがい、実行してください。(一般的な強制)
	必ず漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いてください。
	必ずアースの接続を確認してください。

警告



必ず実行

- 本機を設置する場合および本機を別の場所に移動する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

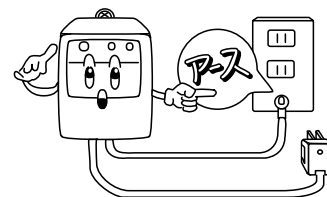
設置に不備があると、感電、火災、やけど、事故、故障の原因になります。



必ずアース
の接続確認

- アースの接続を確認してください。
また、アースを外して使用しないでください。
ガス管、水道管、避雷針、電話線などに接続しないでください。

アースが不完全な場合は、感電、火災の原因になります。
アースはD種接地工事（旧第3種接地工事）が必要ですので
販売店にご相談ください。



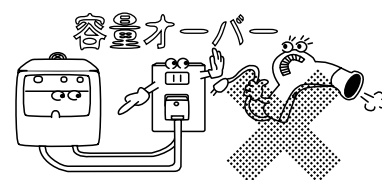
- コンセントは浴室内に設置しないでください。
また、漏電保護リレーおよびプラグに水をかけない
ように注意してください。

感電、火災、故障の原因になります。



- コンセントの定格容量を超えないようにしてください。また、たこ足配線をしないでください。
不足の場合は、コンセントを増設してください。

本機は約8Aの電流が流れます。たこ足配線などで定格を超え
ると、本機の漏電保護リレーや分電盤のブレーカーが動作した
り、火災、故障の原因になります。（増設は、販売店に相談す
るか、電気工事店に依頼してください。）



禁止

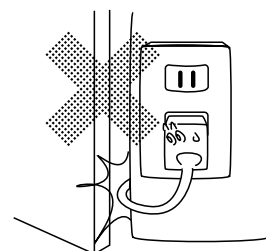
- 延長コードは使用しないでください。
コードを長くする必要がある場合は販売店にご連絡ください。

延長コードを使用すると、火災の原因になります。

- 電源コードを加工（切断、接続等）して、短くしたり、延長したりしないでください。
また、電源コードをドアなどにはさみ込んだり、たばねたり、重い物を置いたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。

電源コードを破損したり、コードの表面を傷つけた
場合は使用しないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



警告



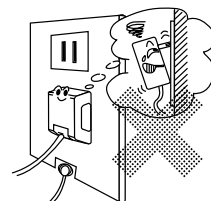
必ず実行

- 長期使用で、コンセントの刃受け部がゆるんでいたり、緑青（ろくしょう）が発生している場合は、コンセントを新品に交換してください。

火災、故障の原因になります。（交換は、販売店に相談するか、または電気工事に依頼してください。）

- 漏電保護リレーのプラグは、根元までコンセントに確実に差し込んでください。

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

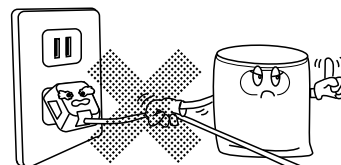


- 漏電保護リレーのプラグは定期的に抜いて乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。

ほこりなどが付着していると湿気等により絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 漏電保護リレーのプラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。

電源コードを引っ張って抜くと被覆が破損したり、芯線の一部が断線して、感電、火災、故障の原因になります。



禁止

- 漏電保護リレーのプラグの抜き差しにより、本機の運転や停止を行わないでください。停止するときは、必ず「運転」キーで停止してください。

感電、火災、故障の原因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で漏電保護リレーを操作したり、プラグの抜き差しを行わないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



水ぬれ禁止

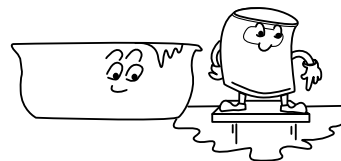
- 本体にシャワー等の水がかからないように注意してください。

（トップカバーは必ずかぶせておいてください。）

本体に水をかけて洗ったり、浸水させたりしないでください。

床置きなどで、浴室の水はけが悪く、本体の底まで浸水することがある場合は、台を置くなどして本体を高くしてください。

本体は防滴構造になっていますが完全防水ではありません。本体に浸水すると、感電、火災、故障の原因になります。



警告



禁止

- 本体を傾けたり、倒したり、また本体や浴槽のふたの上に重い物を置いたり、手をついたり、乗ったりしないでください。

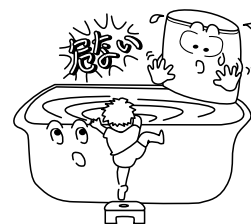
感電、ケガ、故障の原因になります。



注意

- 小さなお子様がいるご家庭は、浴槽に落ち込まないように特に注意してください。

本機を使用することにより1日中浴槽に湯が満たされているため、事故のおそれがあります。



必ず実行

- 湯かげんを手で確かめてから入浴してください。

やけどのおそれがあります。



禁止

- プレフィルターケースやプレフィルターがゆるんだ状態や外れた状態で入浴しないでください。
- 吸排ユニット内部のホースの接続を外さないでください。
- 吸込口をふさがないでください。
- 運転中に浴槽内のお湯に潜らないでください。
- 小さなお子様だけの入浴はさけ、大人の方が一緒にご入浴ください。

吸込口に髪の毛などが近づくと吸い込まれ、事故のおそれがあります。

- 自動熱洗浄中（「熱洗浄」ランプおよび『70℃』表示が点滅しているあいだ）は、入浴しないでください。
- また、本体のろ過タンクふたおよびダブル制菌管ユニットなどを外さないでください。

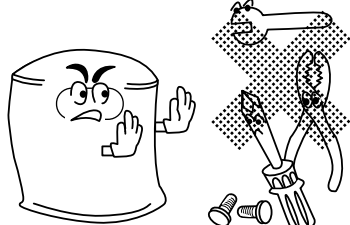
熱水（約70℃）が本体内部を循環しており、やけどのおそれがあります。

- 自動熱洗浄中（「熱洗浄」ランプおよび『70℃』表示が点滅しているあいだ）は、排水ホースの吐出口に近づかないでください。特に小さなお子様には注意してください。

自動熱洗浄の終了前に、熱水（50℃～70℃）が断続的に排水され、やけどのおそれがあります。



⚠ 警告

 必ずプラグを抜く	■ 雷雨時は、運転を停止し、漏電保護リレーのプラグを抜いてください。 感電、火災、故障の原因になります。 ■ 本体を浴水中に落とした場合は、使用を中止し、漏電保護リレーのプラグを抜いてください。プラグを抜いたあと、本体を引き上げて、お買い上げの販売店にご連絡ください。 感電、火災の原因になります。 ■ こげ臭い等の異常があったときは、運転を停止し、漏電保護リレーのプラグを抜き、お買い上げの販売店にご連絡ください。 異常のまま運転を続けると、感電、火災、やけど、故障の原因になります。
 分解禁止	■ お客様ご自身で本機（電源コード、漏電保護リレー、プラグおよび吸排ユニットを含む）の分解や改造、修理を行わないでください。 修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。 感電、火災、やけど、事故、故障の原因になります。 
 禁止	■ 点灯中のダブル制菌管は紫外線を発生していますので、絶対に直接肉眼で見ないでください。 目の痛みや視力障害の原因になります。 ■ ダブル制菌管の光を皮膚に直接当てないでください。 皮膚の炎症を起こす原因になります。
 必ずプラグを抜く	■ 浴槽や本体を清掃したり、ろ過材を洗浄するとき、およびダブル制菌管ユニットの清掃や交換を行うときは、運転を停止し、漏電保護リレーのプラグを抜いてください。 感電の原因になります。
 必ず実行	■ 日常、本機の各部に異常がないか、また本体の固定にガタツキがないか、固定金具等がゆるんでいないか点検してください。 異常がある場合は使用を中止してください。 本機に異常がある状態（き裂、破損、へこみ等）、本体がしっかり固定されていない状態で放置すると、運転が正常に行われなかったり、転倒や落下し、感電、火災、やけど、ケガ、故障の原因になります。

⚠ 警告

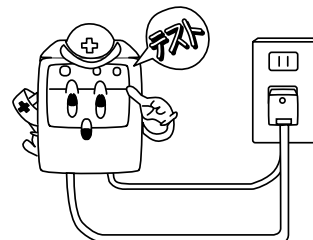


必ず実行

■ 安全のため、月に 1 回以上、漏電保護リレーの点検を行ってください。

動作不良があると、感電、火災、故障の原因になります。

(**お手入れのしかた** 【漏電保護リレーの点検】 参照…42 ページ)



必ずプラグを抜く

■ 本機を長期間使用しないときは、安全のため漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いておいてください。

ほこりなどがたまり、火災の原因になります。



必ず実行

■ 浴水を清潔な状態に維持管理していただくために、下記の定期的なお手入れを必ず行ってください。

お手入れが不十分な場合、正常な浄化が行われず、細菌などが繁殖しやすくなり、疾病（細菌感染等）を起こす原因になります。

(**お手入れのしかた** 【お手入れの時期と内容】 参照…22 ページ)

- 浴槽の内側や吸排ユニットまわりの汚れ・ヌメリ・ザラツキは、毎日、最後の入浴が終わってからスポンジや、やわらかい布でふきおとしてください。
プレフィルターも毎日洗ってください。
また、浴槽ふた・洗面器・洗い場なども、こまめに掃除してください。
- 自動熱洗浄は、2 日に 1 回行ってください。
- 浴水は、3 週間に 1 回交換してください。にごり、臭いが気になる場合は早めに交換してください。
浴水交換時に、浴槽・吸排ユニットなどを清掃してください。
ガス釜等の循環風呂釜（追い焚き式）が付いている風呂は、浴水交換を行う前に風呂釜内部を市販の風呂釜用洗浄剤で洗浄してください。（循環風呂釜内部の汚れの付着を防止するため、1 週間に 1 回以上、循環風呂釜をお使いになることをおすすめします。）
- 管路洗浄は、半年に 1 回行ってください。
管路洗浄のとき同時にろ過材のお手入れ（洗浄または交換）とダブル制菌管ユニットの清掃を行ってください。（ダブル制菌管ユニットは 3 年半に 1 回交換してください。）

⚠ 注意

 禁止	■ 本機を、通常の入浴目的以外に使用しないでください。 ■ 本機は業務用対応機種ではありません。業務用として使用しないでください。
 必ず実行	■ 体調に異常を感じた場合、皮膚に異常（湿疹、かゆみ、傷、やけど等）がある場合、および伝染性の疾病にかかっている疑いのある方、その他疾患のある方は、使用を中止して専門医にご相談ください。 ■ 体調のすぐれないときや酒酔いしているときは、入浴を控えてください。体力の弱っているお年寄りや乳幼児の入浴は、専門医にご相談ください。 ■ 入浴前に、身体の汚れや汗をおとしてください。 身体に付いている化粧品や軟膏等もおとしてから入浴してください。 身体に付着している細菌や汚れ等を浴槽に多く持ち込むと、他の人が疾病を起こしたり、浴水のにごり、臭いの原因になります。
 禁止	■ 浴槽の湯を口に含んだり、飲んだり、水中に潜ったりしないでください。 体調を損なうおそれがあります。 ■ 浴槽の湯をシャワーに使用しないでください。 気泡発生装置（ジェットバス、炭酸発生装置など）との併用もさけてください。 体調を損なうおそれがあります。 ■ プレフィルターの洗浄などお手入れで必要なとき以外は、本機の運転を止めないでください。 浴水の浄化は本機を運転しているあいだ維持されます。運転を止めると、止めているあいだに細菌などが繁殖しやすくなり、疾病を起こす原因になります。
 接触禁止	■ 運転中および運転停止直後は、熱いのでダブル制菌管ユニットに触れないでください。取り外す場合は、手袋や布などを使用してください。 やけどのおそれがあります。
 禁止	■ ダブル制菌管ユニットは、落としたり、物をぶついたり、無理な力を加えたり、傷をつけないでください。 割れて、ケガ、故障の原因になります。
 必ず実行	■ 使用済みのダブル制菌管ユニットは、割らずに廃棄してください。 ケガの原因になります。

注意



必ず実行

- 当社専用の管路洗浄剤を使用するときは、洗浄剤の袋に記載されている注意書きをよくお読みください。

誤った取り扱いを行うと、事故につながるおそれがあります。

- 本機を長期間（1週間以上）使用しないときは、管路洗浄を行い、本体内部の湯を抜いたあとろ過タンクの中を乾かしておいてください。
運転を再開するときは、同様に管路洗浄を行い、新しいろ過材をセットしてください。

汚れたまま、あるいは水が入ったままで放置しておくと、使用を再開したときの悪臭の原因になったり、疾病（細菌感染等）を起こす原因になります。故障の原因にもなります。



注意

- 長時間お湯を浴槽にはっているため、浴槽表面の荒れ、膨れ、変色等の変化が早まる場合があります。特に長年ご使用になった浴槽の方が変化しやすい傾向にあります。

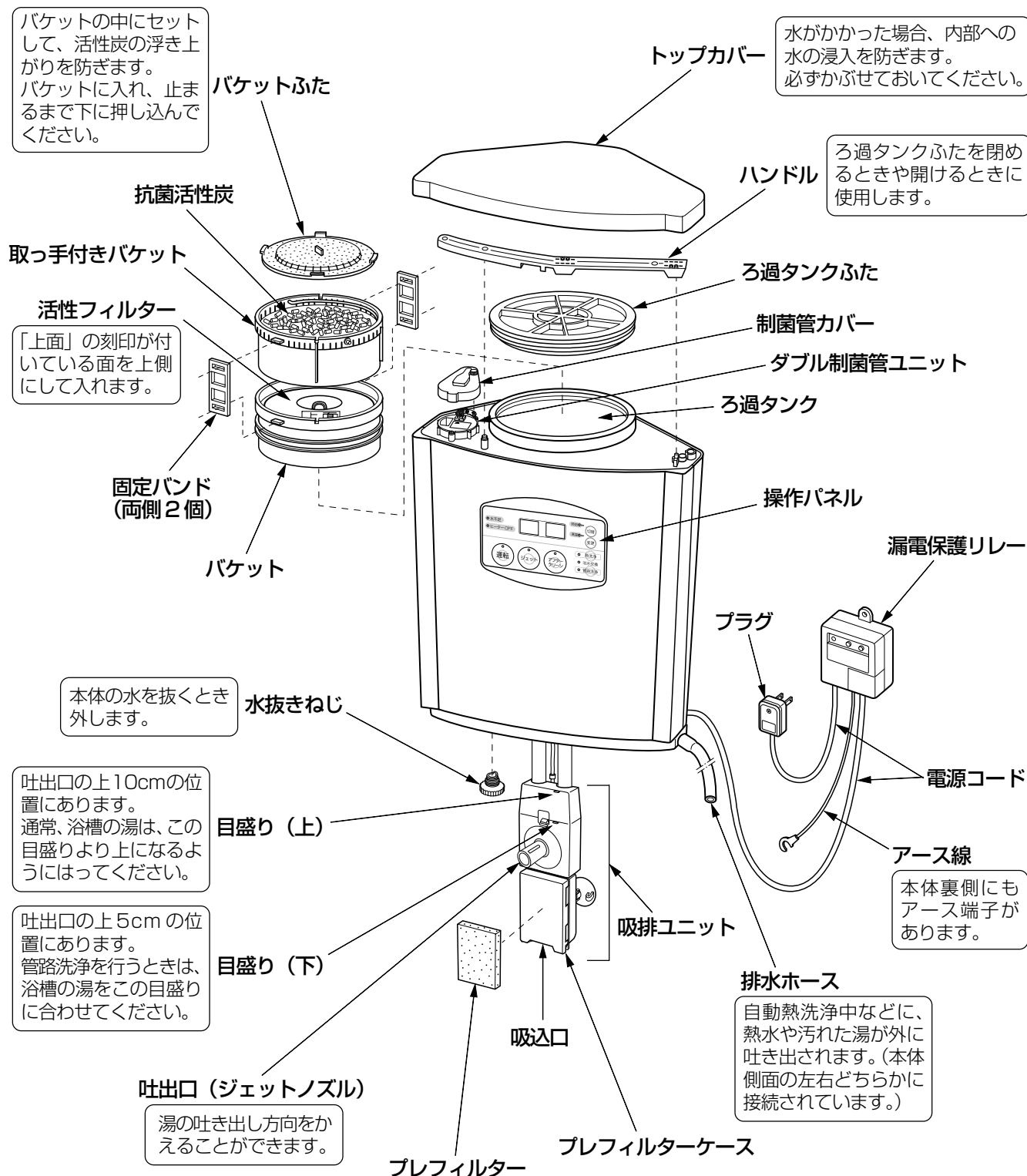
おすすめの浴槽は24時間風呂対応浴槽、カラステンレスを除くステンレス、タイル等の浴槽です。

カラステンレス浴槽は、特に変化が生じやすいので使用しないでください。浴槽のお手入れについては、浴槽メーカーの取扱説明書等をお読みください。

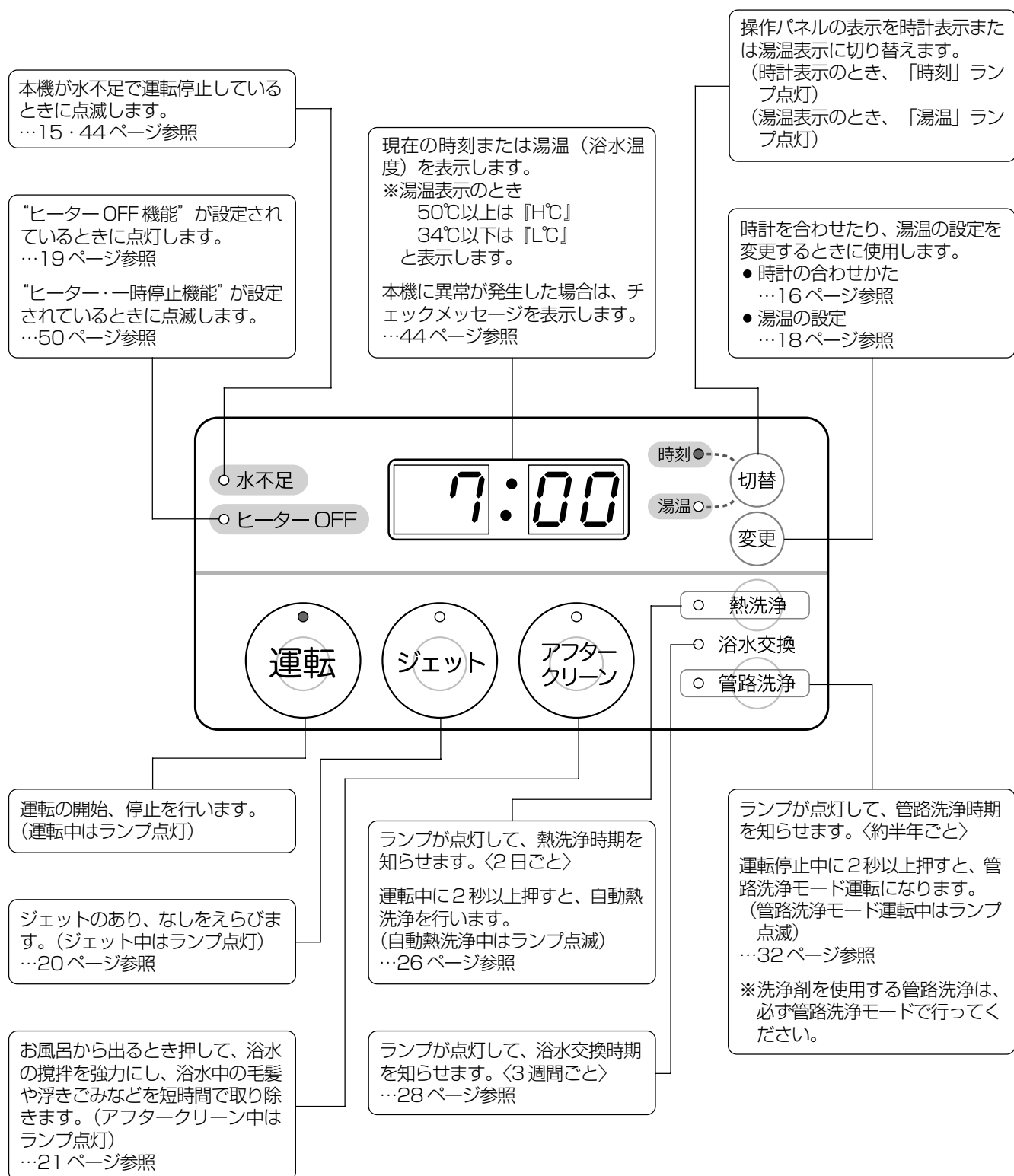
- 浴槽ゴム栓など浴水に触れているゴム部品は、本機を使用することにより長時間お湯を浴槽にはっているため、通常より傷みやすい場合があります、部品交換時期も通常より早まる場合があります。

各部のなまえとはたらき

〔本体・吸排ユニット〕



【操作パネル】



※操作パネルは各機種共用で説明していますので、機種によっては操作パネルのデザインが本図と異なる場合がありますが、機能・操作方法は同じです。

使用上のご注意

クリーンバスユニットを快適にご使用いただくために、次の注意事項をお守りください。

[正しくお使いいただくためのご注意]

- 浴水には、水道水または飲み水に適した井戸水をご使用ください。

温泉水は使用しないでください。

温泉水やカルシウム等硬度成分を多く含んだ水質は、ろ過材の寿命に影響をおよぼしたり、浄化できないことがあります。また、本機の故障の原因になります。

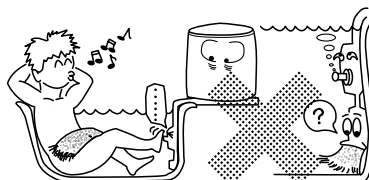
- お風呂の沸かし過ぎに注意してください。

追い焚きや給湯などをする場合、必要以上に熱くすると、吸排ユニットが変形したり、本機の故障の原因になります。



- 湯の吸込口や吐出口（ジェットノズル）をタオルや手でふさいだり、異物を吸い込ませないでください。

故障の原因になります。



- 塩または塩を含んだ水を浴水に入れないでください。

故障の原因になります。

- アフタークリーンするとき、湯の吐出口（ジェットノズル）から出る泡の量が少なくなってきた場合は、ろ過材の洗浄または管路洗浄を行ってください。

ろ過材や本体・吸排ユニット・ホースなどの管路が汚れて浴水の循環量が少ないと、十分な浄化性能が得られません。（管路洗浄方法は **お手入れのしかた** 【管路洗浄】 参照…32 ページ）

- 浴水が設定した温度まで上がらない場合、あるいは短時間で温度を上げたい場合は、他の熱源で追い焚きするか、給湯してください。

本機は浴水を保温するもので、追い焚き機能はありません。（浴槽の大きさ、浴室の保温性および季節などによっては、浴水を設定温度に保温できないことがあります。）

- お手入れのときなど必要なとき以外は、本体のトップカバーを外さないでください。お手入れのときなどトップカバーを外す場合は、制菌管カバーのまわりをぬらさないように注意してください。

内部がぬれると、ダブル制菌管ユニットのコネクタ部がぬれたり、本体の中に浸水して、故障の原因になります。

- 冬期、長時間運転停止していて凍結のおそれがある地域の場合は、下記方法により本体内部の水を抜き、さらに、ろ過タンクふたを外した状態で本体をさかさまにして内部に残っている水を完全に抜く必要があります。お買い上げの販売店にご連絡ください。

内部が凍結すると、故障の原因になります。

（本体内部の水の抜きかたは **お手入れのしかた** 【管路洗浄】 手順⑧参照…34ページ）

- 本体の汚れは、湿らせたやわらかい布またはうすめた中性洗剤で軽くふきとってください。シンナーなど揮発性のものや漂白剤、カビ取り剤およびみがき粉、たわしなどは使用しないでください。

[浴水の水質維持のためのご注意]

設置当初のにごり・臭いについて

- 浴槽にガス釜等の循環風呂釜（追い焚き式）が付いている風呂は、本機をご使用前に、風呂釜内部を市販の風呂釜用洗浄剤で洗浄してください。
風呂釜内部の汚れにより浴水がにごったり、臭いが出ることがあります。

浴水のにごり・臭いが気になるとき

- 入浴中、にごり・臭いが気になる場合は、通常の交換時期より早めに浴水を交換してください。
浄化が正常に行われていても、浴槽のふたを開けたときに臭いを感じることがあります。浴水に持ち込まれた汗、石けん、化粧品などの微量な臭い成分が浴槽の中にたまっていたもので、本機の故障ではありません。
また、浴水に使用している水がもともとにごっていたり、水質、薬の服用、入浴のしかた等によっては、にごり・臭いが取れにくいことがあります。

浴水のにごり・臭い防止のためお願い

- 入浴前に、身体の汚れや汗をおとしてください。
身体に付いている化粧品や軟膏等もおとしてから入浴してください。
- シャンプー、石けん等をよくおとしてから入浴してください。
浴槽の中で身体を洗ったり、中にタオルを持ち込まないでください。
- プレフィルターの洗浄などお手入れのとき以外は、本機の運転を止めないでください。

入浴剤の使用にあたってのお願い

- 入浴剤は、当社指定のもの以外は使用しないでください。
入浴剤を使用したときは、通常より早めに（1週間以内をめやすに）浴水を交換してください。
※使用にあたっては、入浴剤に記載されている使用量をこえないようにご注意ください。
※当社指定の入浴剤については、販売店にご相談ください。

運転のしかた

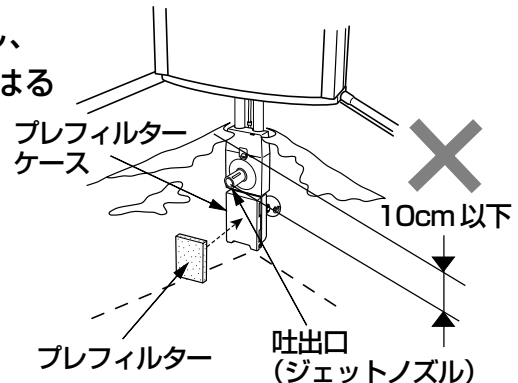
本機を設置後はじめて運転するときは、次の手順でろ過タンクに水をはり（循環ポンプの呼び水）、運転を開始します。

※通常は、「運転」キーを押すだけで運転が開始されます。（ろ過タンクに水をはる必要はありません。）

- ① プレフィルターケースにプレフィルターをセットし、浴槽に、吐出口の上 10cm 以上になるように湯をはる

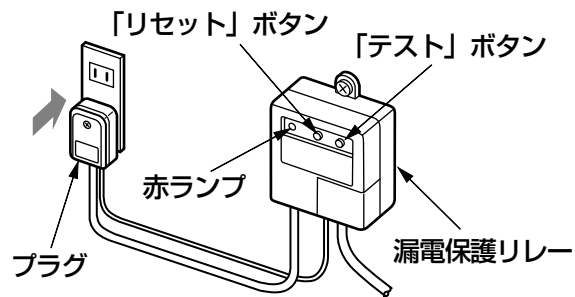
※プレフィルターのセットのしかたは **お手入れのしかた**【プレフィルターの洗浄と交換】を参照してください。（24 ページ）

※浴槽の湯が、吐出口の上 10cm 以下にならないように注意してください。浴水が少なくなると、大きな水音がしたり、浴水を浴槽外に吹き出すおそれがあります。



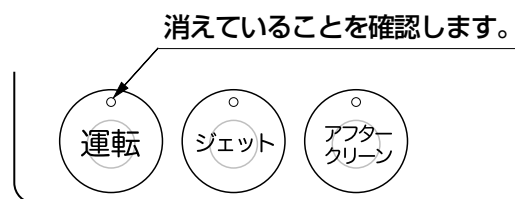
- ② 漏電保護リレーのプラグをコンセントに差し込む（赤ランプ消灯）

※プラグが既に差し込まれていて、「テスト」ボタンが押されて赤ランプが点灯している場合は、電源が「切」の状態です。「リセット」ボタンを押して「入」（赤ランプ消灯）の状態にしてください。



- ③ 操作パネルの「運転」ランプが消えていることを確認する

※点灯している場合は「運転」キーを押してランプを消してください。

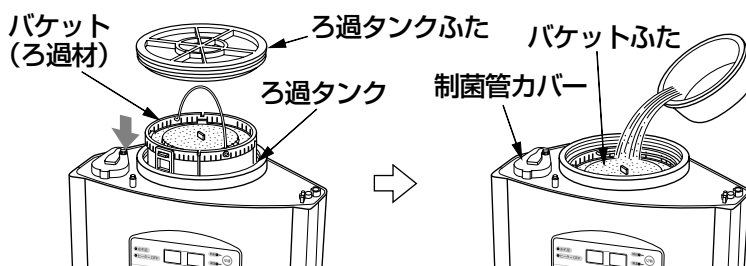
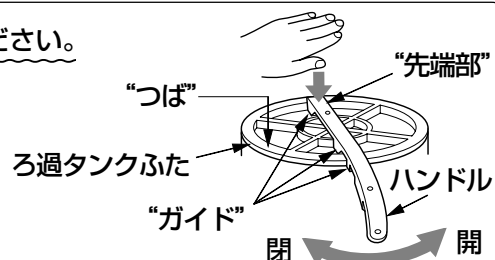


- ④ ろ過タンクの中にろ過材（活性フィルター・活性炭）を入れたバケットをセットし、バケットの上付近まで水または湯をはる（循環ポンプの呼び水）

ろ過タンクふたの開閉には付属のハンドルを使用してください。

手のひらで、ハンドルの「先端部」を上からしっかり押しつけながら回してください。

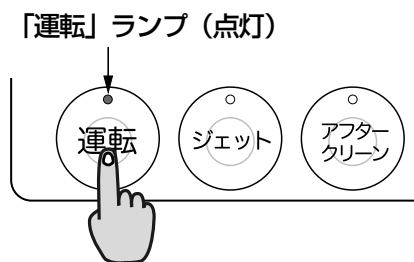
※ふたの「つば」の部分にハンドルの「ガイド」が乗り上げた状態で回さないでください。



※新しい活性炭は黒い粉が出ますので、洗ってからお使いください。洗いかたおよびろ過材のセットのしかたは **お手入れのしかた**【ろ過材の洗浄と交換】を参照してください。（36 ページ）

※制菌管カバーなど、ろ過タンク周辺に水をかけないように注意してください。

⑤ ろ過タンクふたを閉めて、「運転」キーを押す

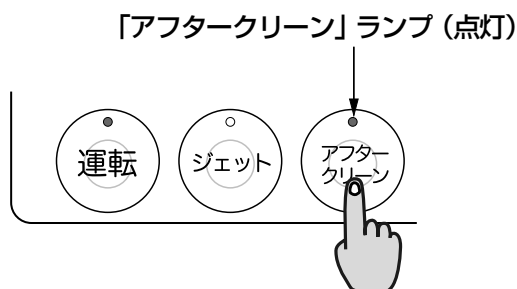


「運転」ランプが点灯して運転を開始します。

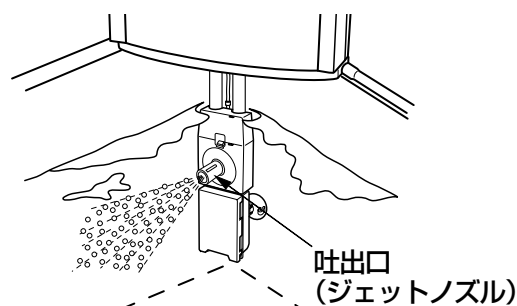
※ふたは手で閉めたあと、ハンドルで軽くしめつけてください。

⑥ 運転開始後、湯の吐出口から大きな泡が出なくなったら「アフタークリーン」キーを押して、運転状態を確認する

※運転を開始すると、はじめは本体内部にたまっている空気が吐出口から大きな泡となって出ます。
泡が出なくなったら「アフタークリーン」キーを押して運転状態を確認してください。
小さな泡が勢いよく連続して出れば正常です。



【アフタークリーンの状態】

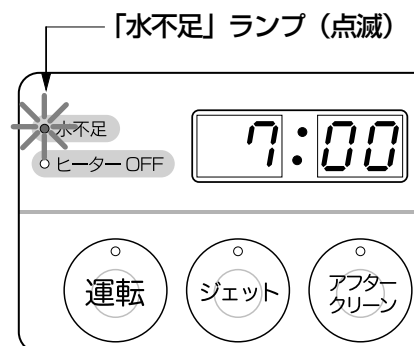


※アフタークリーンは **お風呂に入るとき・出るとき** 〔「アフタークリーン」キーの使いかた〕を参照してください。(21 ページ)

⑦ 運転後、ろ過タンクおよびダブル制菌管ユニットのまわりから水がもれていないことを確認し、トップカバーを取り付ける

ご注意

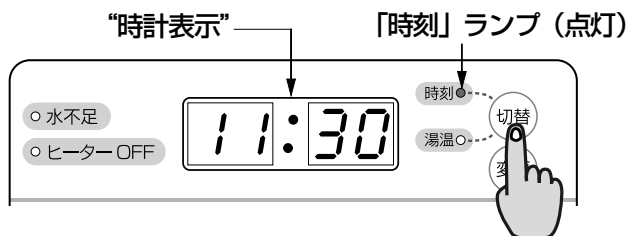
- 本体の設置条件によっては、運転を開始してから約3分後に操作パネルの「水不足」ランプが点滅して、運転停止する場合がありますが、故障ではありません。
その場合はもう一度「運転」キーを押してください。
それでも「水不足」ランプが点滅して運転停止する場合は、もう一度手順④からの水はり、運転を繰り返してください。
- 本機は自吸式ポンプを採用していますので、お手入れのあとなど通常はろ過タンクに水をはる必要はありません。
ただし、本機を設置後はじめて運転するとき、本体をさかさまにして水を抜いたときなどは、水はりが必要です。



時計の合わせかた

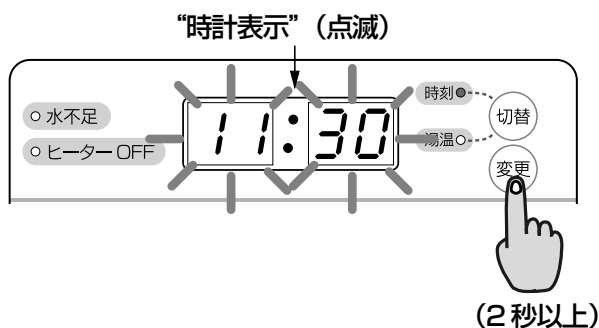
(例) 本機の時計を7時に設定する場合(時計の表示は、午前と午後の区別がありません。)

① 「切替」キーを押して「時刻」ランプを点灯させ、「時計表示」にする



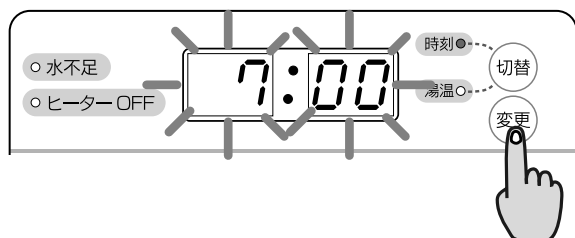
※もともと「時計表示」をえらんでいて「時刻」ランプが点灯している場合は、押す必要はありません。(操作パネルが「時計表示」のときに、時刻の設定ができます。)

② 「変更」キーを2秒以上押す



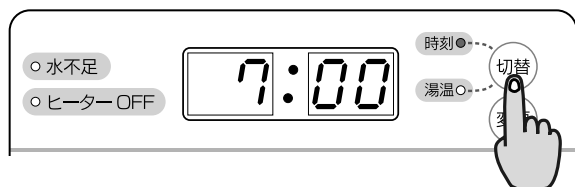
表示されている時刻が点滅し、変更が可能になります。

③ 「変更」キーを押して、『7:00』を表示させる



※キーは、1回押すごとに1分ずつ進めることができます。
押し続けると連続して進めることができます。

④ 「切替」キーを押す



「時計表示」が点滅から点灯にかわり、本機の操作パネルの時計に7時が設定されます。

※手順③で変更したまま「切替」キーが押されない場合は、1分後に自動的にそのとき表示されている時刻に設定されます。

時報に正確に合わせる場合

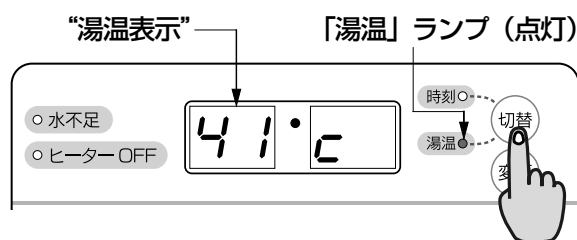
時報の前の 1 分以内に、手順①～③で時報を告げる時刻を表示し、時報と同時に「切替」キーを押せば（手順④）時計を正確に合わせることができます。

湯温の設定

本機は、浴水を 36℃～45℃の範囲でお好みの温度に保温することができます。
他の熱源で保温を行うなど保温を必要としない場合は、保温機能を停止することもできます。

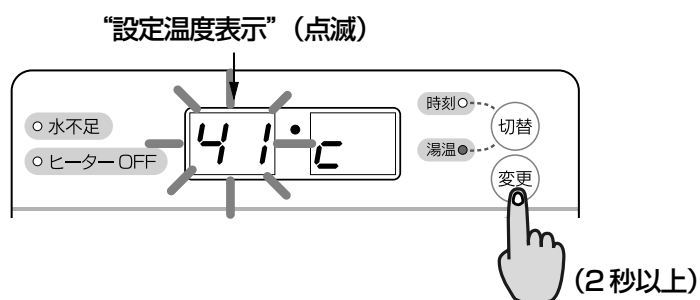
[例] 湯温を 42℃に設定する場合（お買い上げ時、湯温は「41℃」に設定されています。）

① 「切替」キーを押して「湯温」ランプを点灯させ、「湯温表示」にする



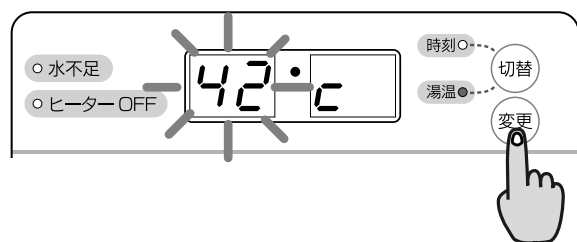
※もともと“湯温表示”をえらんでいて「湯温」ランプが点灯している場合は、押す必要はありません。（操作パネルが“湯温表示”のときに、湯温の設定ができます。）

② 「変更」キーを2秒以上押す



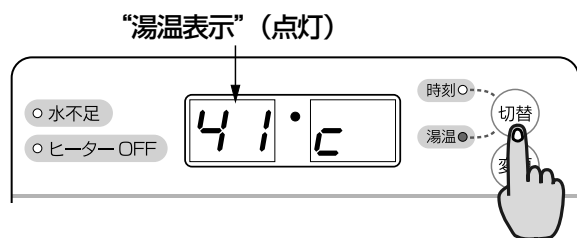
“湯温表示”が“設定温度表示”にかわり点滅し、湯温の設定が可能になります。

③ 「変更」キーを押して、『42』℃を表示させる



※キーは、1回押すごとに『36』℃～『45』℃、『oF』℃の順に1℃ずつ繰り返しかえることができます。
押し続けると連続してかえることができます。

④ 「切替」キーを押す



表示が“設定温度表示”（点滅）から現在の湯温（浴水温度）を示す“湯温表示”（点灯）にかわり、湯温 42℃が設定されます。

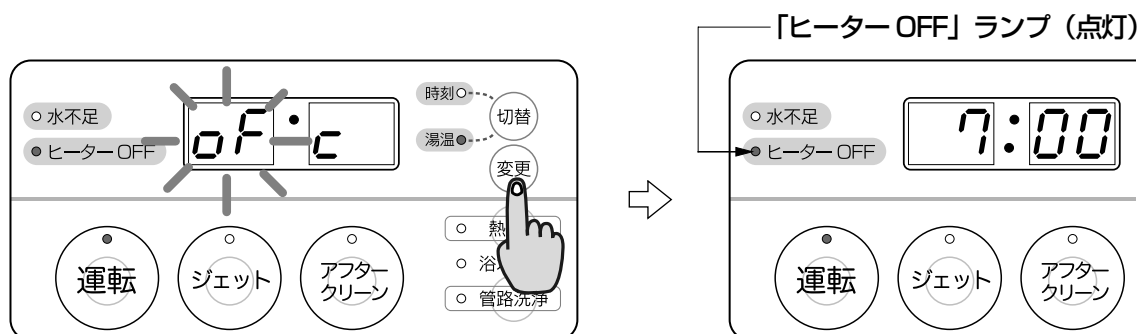
※手順③で変更したまま「切替」キーが押されない場合は、10秒後に自動的にそのとき表示されている温度に設定されます。

“ヒーター OFF 機能” の使いかた

手順③のとき、「変更」キーで『45』℃の次の『oF』℃をえらぶと、保温機能が停止され（保温をやめ）、浄化だけを続けます。

旅行などでしばらく入浴しないときや、本機以外の保温装置や追い焚き装置を使うときにご利用ください。

【運転中の表示例】



※ “ヒーター OFF 機能” が設定されているあいだ、操作パネルの「ヒーター OFF」ランプが点灯しています。

※ 短時間（1 時間）だけ保温機能を停止する場合は、“ヒーター・一時停止機能” をご利用ください。

（**こんなときには** 【ご家庭のアンペアブレーカーや配線用遮断器がときどき切れる】参照…50ページ）

※ “ヒーター OFF 機能” を設定していても自動熱洗浄は行えます。

自動熱洗浄中は本機のヒーターが通電されるため、約 8A の電流が消費されますのでご注意ください。

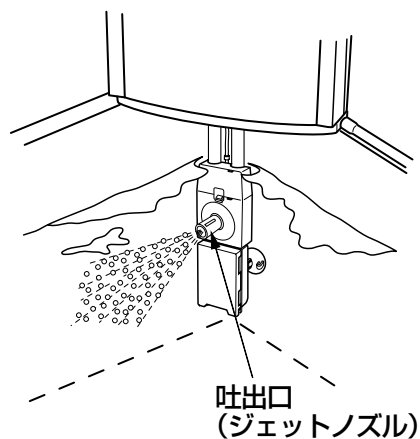
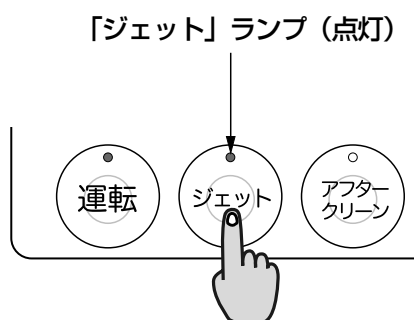
（自動熱洗浄は **お手入れのしかた** 【自動熱洗浄】 参照…26 ページ）

お風呂に入るとき・出るとき

【「ジェット」キーの使いかた】

ジェットは、湯の吐出口から気泡を出すことができます。

入浴中、気泡を出したいとき「ジェット」キーを押す



※ジェットは、5分間使用すると自動的に止まります。(気泡が出なくなります。)
必要な場合は、「ジェット」キーでえらび直してください。

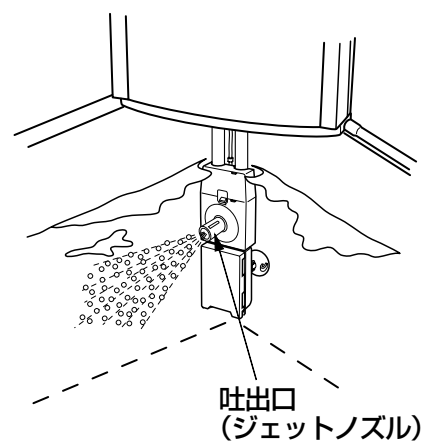
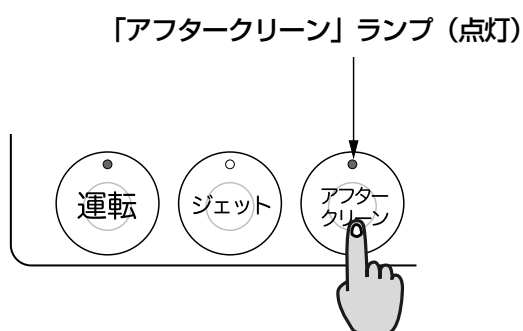
※ジェットを途中でやめる場合は、もう一度「ジェット」キーを押してください。

【「アフタークリーン」キーの使いかた】

アフタークリーンは、湯の吐出口から気泡を連続して出すことにより、浴水の攪拌を強力にし、浴水中の毛髪や浮きごみなどを短時間で取り除きます。

- お風呂から出るとき「アフタークリーン」キーを押してください。
次に入る方が気持ちよく入浴できます。
- 入浴するときにアフタークリーン状態になっている場合は、「アフタークリーン」キーを押してアフタークリーンを中止してからご入浴ください。

お風呂から出るとき「アフタークリーン」キーを押す



※アフタークリーンは、キーを押してから2時間後、自動的に通常の浄化運転にもどります。

※アフタークリーンを途中でやめる場合は、もう一度「アフタークリーン」キーを押してください。

お願い

- 追い焚きまたは給湯を行ったときは、本機の湯温表示より浴水上部の湯温が高くなっていることがあります。入浴するときは、よく攪拌して湯温を確認してください。
- 入浴しないときは、保温効果をあげるため、また浴室の湿気を防ぐため、必ず浴槽にふたをしてください。
- 入浴しないときは、浴室の換気を十分に行ってください。

お手入れのしかた

【お手入れの時期と内容】

浴水・浴室などを清潔な状態におよび本機を正常な状態に維持し、快適な入浴を行うために、下記の定期的なお手入れを行ってください。

お手入れが不十分な場合、正常な浄化が行われず、細菌などが繁殖しやすくなり、疾病（細菌感染等）を起こす原因になります。

※お手入れ時期は、各家庭の人数、入浴回数、入浴方法などによって早まることがあります。

お手入れの時期と内容

お手入れ時期	お手入れするもの		お手入れ方法	参照ページ
毎 日	・ プレフィルター		洗浄（交換 3 週間）	24 ページ
	・ 浴槽内側 ・ 吸排ユニットまわり		汚れ、ヌメリ、ザラツキのふきおとし	25 ページ
「熱洗浄」ランプ が点灯したとき 2 日ごと	・ ろ過材 ・ 本体管路		自動熱洗浄 （「熱洗浄」キーを押す）	26 ページ
「浴水交換」ランプ が点灯したとき 3 週間ごと	・ 浴水		交換	28 ページ
	・ 浴槽 ・ 吸排ユニット		清掃	
「管路洗浄」ランプ が点灯したとき 半年ごと	・ 本体 ・ 吸排ユニット ・ ホース などの管路		専用洗浄剤による 管路洗浄	32 ページ
	ろ過材	・ 活性炭	洗浄（交換 1 年）	36 ページ
		・ 活性フィルター	交換	
	・ ダブル制菌管ユニット		清掃	38 ページ
『55 00』表示 が点滅したとき 3 年半ごと	・ ダブル制菌管ユニット		交換	38 ページ

お手入れ時期よりも前に次のような状態になった場合には、通常よりも早めにお手入れを行ってください。

- プレフィルターが変形したり、こしがなくなってきたり、洗っても汚れが取れなくなってきた場合
…プレフィルターの交換
- アフタークリーンするとき、湯の吐出口（ジェットノズル）から出る泡の量が少なくなってきた場合
…①プレフィルター・ろ過材の洗浄
②プレフィルター・ろ過材を洗浄してもかわらないときは、管路洗浄
- 浴水がにごってきたり、臭いが出てきた場合
…①浴水の交換
②ガス釜等の循環風呂釜（追い焚き式）が付いているときは、市販の風呂釜用洗浄剤による風呂釜内部の洗浄
（風呂釜内部が汚れていると、にごり・臭いの原因になります。）
③ダブル制菌管ユニットの保護管（ガラス管）が汚れているときは、保護管の清掃
※上記処置を行ってもかわらない場合は、ろ過材またはダブル制菌管の寿命が考えられます。

ご注意

- お手入れのとき、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜くと時計機能が停止され、時刻が合っていないなかったり、『0:00』にもどったりします。
通電が停止された場合は、正しい時刻に合わせ直してください。
※通電が停止されても設定温度は記憶されています。
- ろ過タンクからバケットを出し入れしたり、ろ過タンクの中を清掃したり、ダブル制菌管ユニットなどを清掃するときは、本体や制菌管カバー周辺に水をかけないように注意してください。故障の原因になります。
- ろ過材を洗ったり、管路洗浄を行う際は、手の汚れ、荒れなどを防ぐため、炊事用のゴム手袋を使用してください。
- プレフィルターやろ過材などの洗浄は、湯を使用すると一層効果的です。

⚠ 警告



浴槽や本体を清掃したり、ろ過材を洗浄するとき、およびダブル制菌管ユニットの清掃や交換を行うときは、運転を停止し、漏電保護リレーのプラグを抜いてください。
感電の原因になります。

【プレフィルターの洗浄と交換】

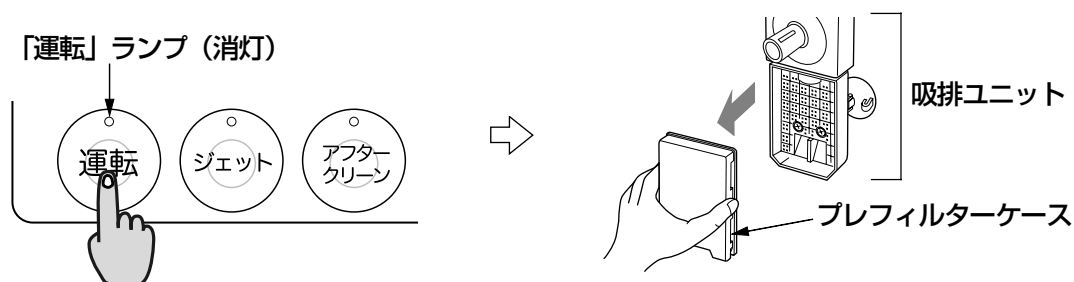
プレフィルターは、毎日洗浄してください。また、3週間に1回交換してください。

※プレフィルターは、2つを交互に使用すると便利です。

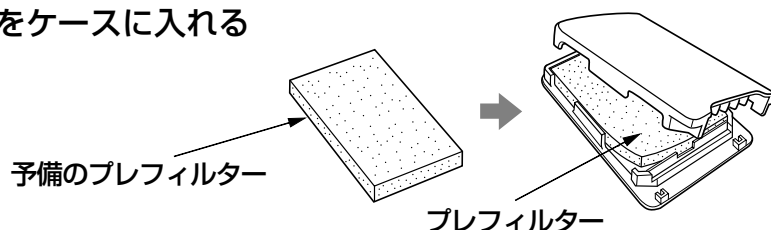
※使用済みのプレフィルターは、樹脂ごみ（ウレタン）として処理してください。

なお、詳細は各地域の条例や自治体の廃棄物分類要領にしたがってください。

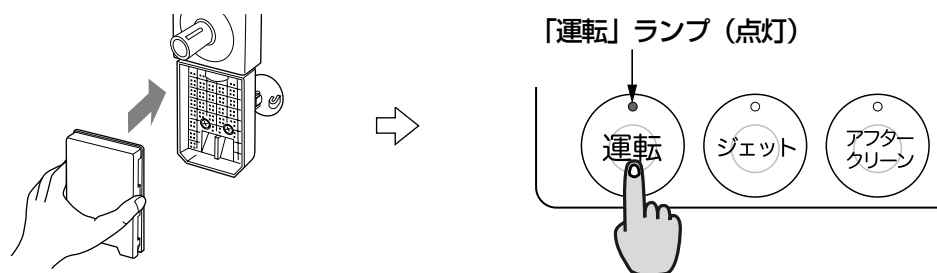
① 「運転」キーを押して運転を停止し、プレフィルターケースを取り外す



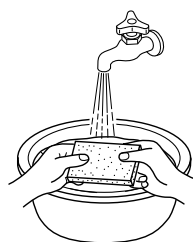
② プレフィルターケースの中からプレフィルターを取り出し、ケースを洗ってから、予備のプレフィルターをケースに入れる



③ プレフィルターケースを取り付け、「運転」キーを押して運転を開始する



④ 取り出したプレフィルターは手でもみ洗いしておく



※石けんで洗った場合は、よく石けんをおとしてください。

※プレフィルターを外したまま運転しないでください。異物が直接吸い込まれると、ろ過材の寿命が短くなったり、故障の原因になります。

[浴室内のお手入れ]

クリーンバスユニットを快適にご使用いただくために、浴室内は清潔にしてください。

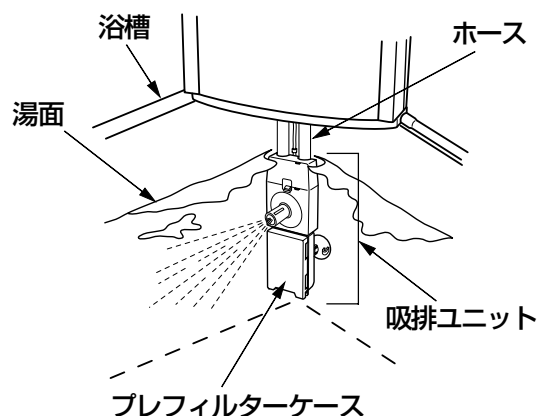
- 浴槽の内側、吸排ユニットおよびホースのまわりは、毎日、最後の入浴が終わってからスポンジや、やわらかい布で軽くふきおとしてください。

本機が正常でも、浴槽の内側、吸排ユニットおよびホースのまわりに汚れやヌメリが付いたり、浴槽、吸排ユニットおよびホースの湯面に触れる場所がざらつくことがあります。

※ふきおとした汚れは、しばらく運転が続けられるときれいになります。

- 浴槽ふた、洗面器および洗い場などは、こまめに掃除し常に清潔にしてください。
- 活性炭が新しい場合、しばらくは浴槽の底に微粉末がたまる場合があります。拾い出してください。
また、しばらくは浴槽や吸排ユニットの湯面に触れる場所が黒く汚れたり、プレフィルターが黒く汚れることがあります。スポンジや、やわらかい布でふきおとしてください。プレフィルターは石けんで洗ってください。

- 水道の配管（特に鉄管）が老朽化していると、水道水中に粒子状の鉄サビが含まれる場合があります、浴槽表面に付着するとキズ、サビ（もらいサビ）等の原因になります。
このような場合には、すみやかにスポンジや、やわらかい布でこすっておとしてください。また、蛇口に簡単なフィルターを取り付けますと防止効果があります。



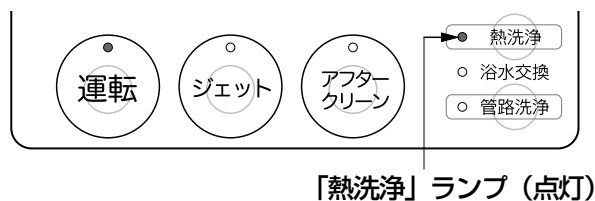
【自動熱洗浄】

ろ過材・本体内部の管路などの日常のお手入れは、2日に1回「熱洗浄」キーを押してください。

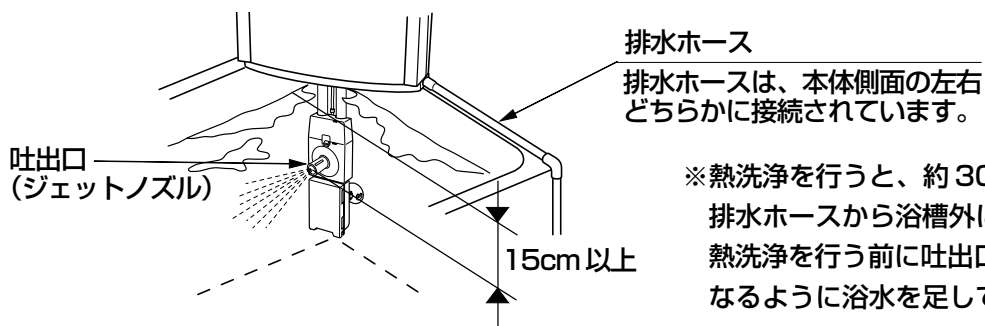
自動的に本体内部の湯を高温に加熱し、ろ過材や本体管路などを熱洗浄します。

熱洗浄時期は、2日に1回操作パネルの「熱洗浄」ランプが点灯して知らせます。

① 前回の熱洗浄を行ってから2日経過すると、「熱洗浄」ランプが点灯する

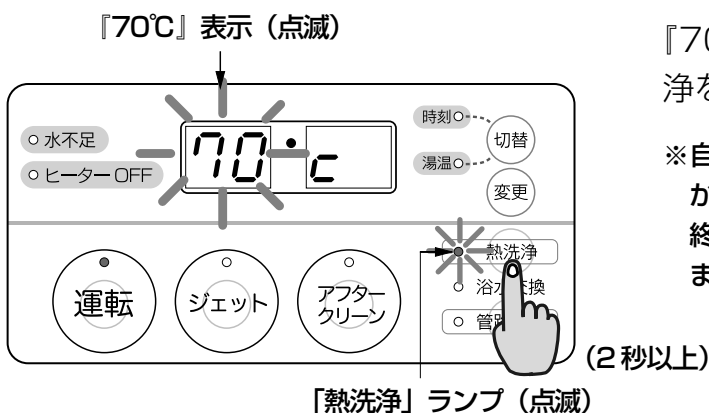


② 浴槽に湯を約30リットル（5～10cm）ほど足す



※熱洗浄を行うと、約30リットルの浴水が排水ホースから浴槽外に排水されます。
熱洗浄を行う前に吐出口の上15cm以上になるように浴水を足しておいてください。

③ 運転状態のまま「熱洗浄」キーを「熱洗浄」ランプが点灯から点滅にかわるまで押し続ける（2秒以上長く押す）



『70°C』が同時に点滅表示し、自動熱洗浄を開始します。

※自動熱洗浄は、終了するまで30分～40分かかります。
終了すると自動的に通常の浄化運転にもどります。

※自動熱洗浄の終了前に、熱水を数回に分けて排水ホースから浴槽外へ排水します。排水の数秒前および排水中に電子音が鳴ります。

ご注意

- 自動熱洗浄は、「熱洗浄」ランプが点灯していないときでもできます。
- 自動熱洗浄を途中で中止する場合は、もう一度「熱洗浄」キーを押してください。
本体内部の熱水を自動的に数回に分けて排水したあと、通常の浄化運転にもどります。

※「運転」キーを押すと、自動熱洗浄は中止され、運転も停止します。
運転再開後は、上記同様、本体内部の熱水を自動的に数回に分けて排水したあと、通常の浄化運転にもどります。(このとき運転停止中でも、操作パネルには自動熱洗浄中と同じ表示が出ます。)
- 「熱洗浄」ランプは、自動熱洗浄のすべての手順が自動的に終了すると消えます。
消えてから2日後に再び点灯します。

※管路洗浄モード運転が行われると、「熱洗浄」ランプはその日から2日後に点灯します。(管路洗浄モード運転は、【管路洗浄】参照…32 ページ)
- 「熱洗浄」ランプと「浴水交換」ランプが同時に点灯している場合は、自動熱洗浄を先に行ってください。
(「浴水交換」ランプは、【浴水交換】参照…28 ページ)
- 「熱洗浄」ランプと「管路洗浄」ランプが同時に点灯している場合は、管路洗浄を行ってください。管路洗浄を行えば自動熱洗浄を行う必要はありません。
(【管路洗浄】 **ご注意** 欄参照…35 ページ)
- 自動熱洗浄後は浴水に多少汚れが出ることがありますが、しばらく運転が続けられているあいだに、きれいになります。

※自動熱洗浄は、しばらくどなたも入浴されない時間帯に行ってください。

⚠ 警告



禁止

自動熱洗浄中（「熱洗浄」ランプおよび『70℃』表示が点滅しているあいだ）は、入浴しないでください。

また、本体のろ過タンクふたおよびダブル制菌管ユニットなどを外さないでください。
熱水（約 70℃）が本体内部を循環しており、やけどのおそれがあります。

自動熱洗浄中（「熱洗浄」ランプおよび『70℃』表示が点滅しているあいだ）は、排水ホースの吐出口に近づかないでください。特に小さなお子様には注意してください。

自動熱洗浄の終了前に、熱水（50℃～70℃）が断続的に排水され、やけどのおそれがあります。

[浴水交換]

浴水は、3週間に1回交換してください。

浴水交換時期は、3週間に1回操作パネルの「浴水交換」ランプが点灯して知らせます。

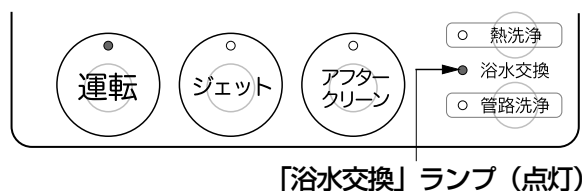
※浴水は、交換ランプが点灯する前でも、にぎり、臭いが気になる場合は早めに交換してください。

※浴水交換時に、同時に浴槽と吸排ユニットも清掃してください。

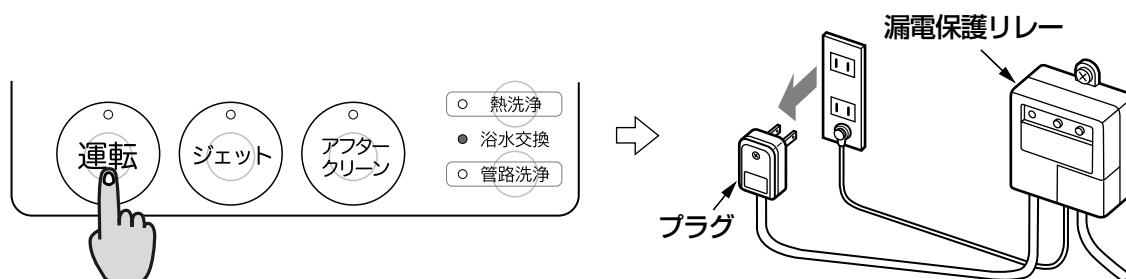
(吸排ユニットの洗浄方法 参照…30 ページ)

※浴槽にガス釜等の循環風呂釜（追い焚き式）が付いている風呂は、浴水交換を行う前に風呂釜内部を市販の風呂釜用洗浄剤で洗浄してください。

① 前回の浴水交換を行ってから3週間経過すると、「浴水交換」ランプが点灯する

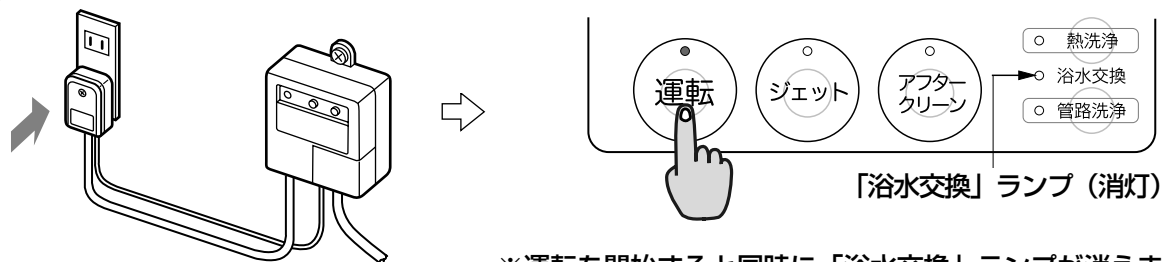


② 「運転」キーを押して運転を停止し、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜く



③ 浴水を交換する（浴槽と吸排ユニットを清掃する）

④ 漏電保護リレーのプラグをコンセントに差し込み、「運転」キーを押して運転を再開する



※運転を開始すると同時に「浴水交換」ランプが消えます。

ご注意

- 「浴水交換」ランプは、「運転」キーによる運転停止状態が10分以上続くか、運転停止を行ってから一度漏電保護リレーのプラグを抜く（電源を切る）と、再運転時に消えます。
消えてから3週間後に再び点灯します。

※管路洗浄モード運転が行われると、「浴水交換」ランプはその日から3週間後に点灯します。
（管路洗浄モード運転は、【管路洗浄】参照…32 ページ）
- 「浴水交換」ランプと「熱洗浄」ランプが同時に点灯している場合は、自動熱洗浄を先に行ってください。
- 「浴水交換」ランプと「管路洗浄」ランプが同時に点灯している場合は、管路洗浄を行ってください。
（【管路洗浄】 **ご注意** 欄参照…35 ページ）

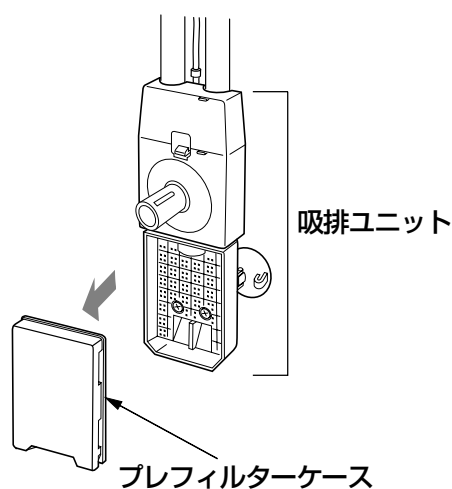
吸排ユニットの洗浄方法

浴水を交換するとき、浴槽や吸排ユニットを浴槽用洗剤できれいに洗ってください。
吸排ユニットは、次の手順でカバーを外すことができます。

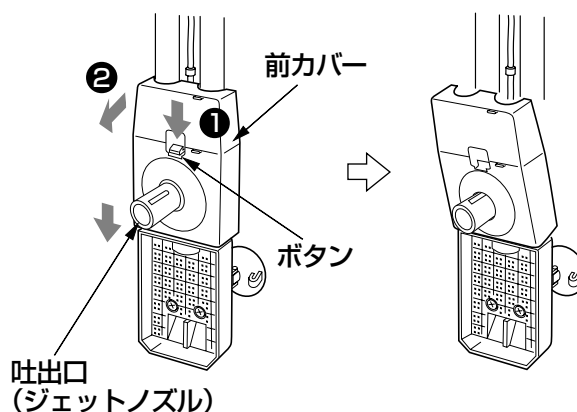
※吸排ユニット内部のホースは外さないで清掃してください。
外した状態で運転を行うと事故のおそれがあります。

① 吸排ユニットからプレフィルターケース・前カバー・吸盤・吐出口の順に外す

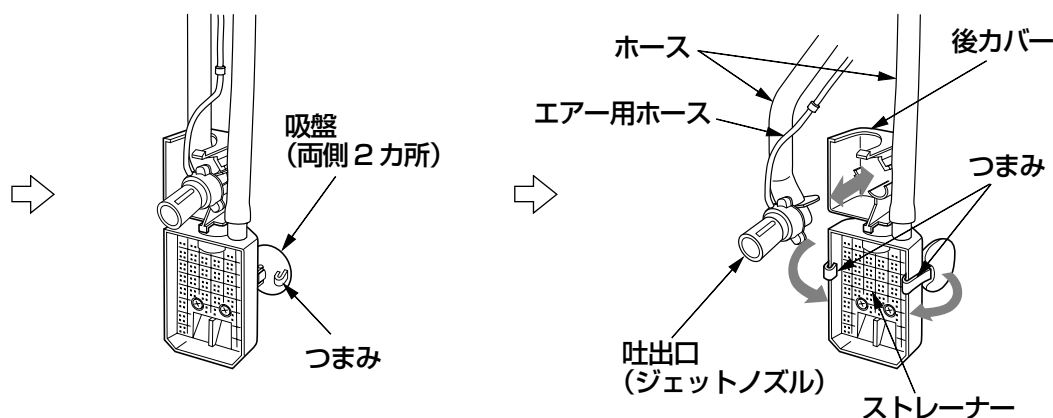
プレフィルターケースを外します。



前カバーは、吐出口を下に向け、中央のボタンを押しながら手前に引いて外します。



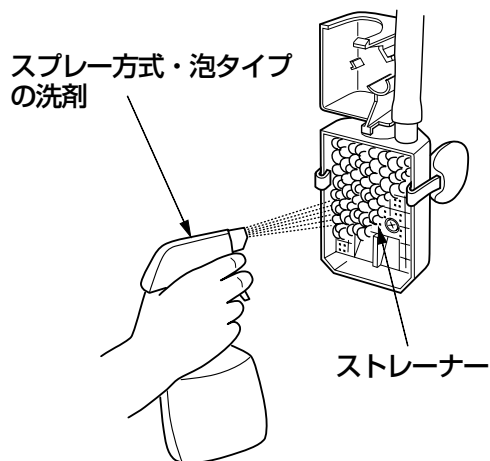
吸盤（2カ所）を浴槽から外し、つまみをそれぞれ側面にとめます。
吐出口は、手前に引いて後カバーから外します。



② 浴槽の中のホース・吐出口・後カバー・ストレーナー、および取り外した前カバー・プレフィルターケースを洗う

※カバーなどのすみの洗いにくい所は、歯ブラシなどを使用して洗ってください。

③ 吸排ユニットのストレーナーの内側（裏側）を、市販のスプレー方式で泡タイプの「台所用品の除菌・除臭・漂白用洗剤」（塩素系）で洗う



※ストレーナーの穴から内側（裏側）に入るように、そして全体に行き渡るように10回ほどスプレーしてください。

スプレーして約5分間置いたあと、流水で30秒以上、十分に洗い流してください。

※洗剤に記載されている使いかたや、注意書きをよくお読みになり使用してください。

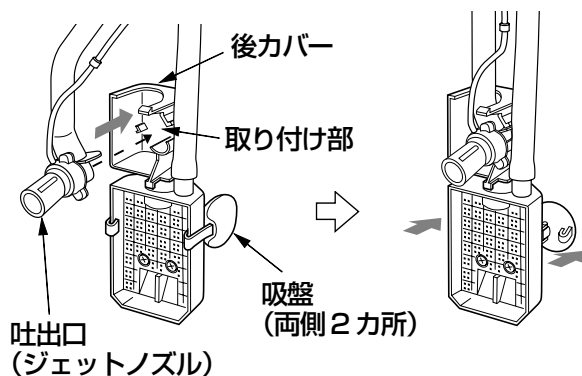
洗剤には「使えないもの」が記載されていますので、浴槽などの材質をご確認のうえで使用ください。

※管路洗浄剤や他の洗剤と絶対に併用しないでください。

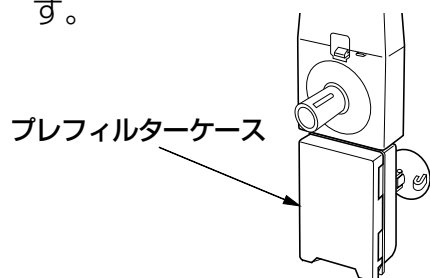
※洗剤は必ずスプレー方式で泡タイプの「台所用品の除菌・除臭・漂白用洗剤」（塩素系）を使用してください。（花王「キッチン泡ハイター」、ライオン「キッチンキレイキレイ除菌・漂白 泡ジェル」など各社から市販されています。）

④ 吸排ユニットをもとにもどす

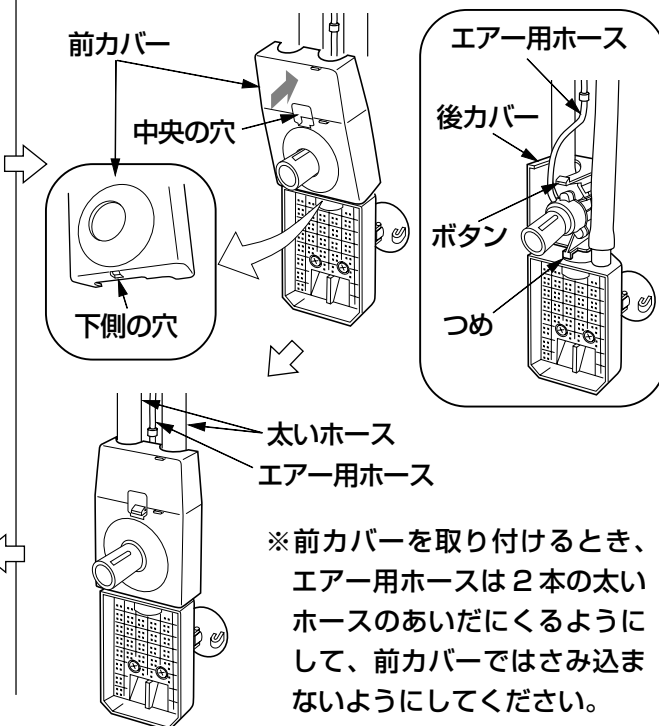
吐出口（ジェットノズル）を後力バーの取り付け部にはめ込み、2カ所の吸盤を浴槽に固定します。



プレフィルターケースを取り付けます。



前力バーは、下側の穴を後力バーのつめに引っ掛け、そのまま前力バーの上側を押つけて、前力バーの中央の穴に後力バーのボタンをはめ込んで固定します。



※前力バーを取り付けるとき、エア用ホースは2本の太いホースのあいだにくるようにして、前力バーではさみ込まないようにしてください。

[管路洗浄]

管路洗浄は、半年に1回行ってください。

長期間使用すると本体・吸排ユニット・ホースなどの管路に汚れが付着し、浴水の循環量が減り、浄化性能が低下します。

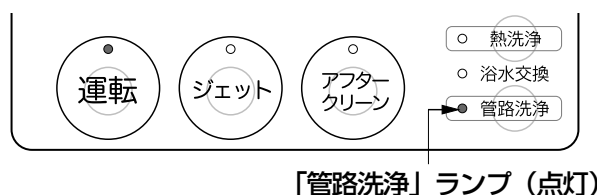
管路洗浄時期は、半年（180日）に1回操作パネルの「管路洗浄」ランプが点灯して知らせます。

※管路洗浄を行うとき、ろ過材の洗浄（交換）とダブル制菌管ユニットの清掃を同時に行ってください。
（[ろ過材の洗浄と交換] …36 ページ参照、[ダブル制菌管ユニットの清掃と交換] …38 ページ参照）

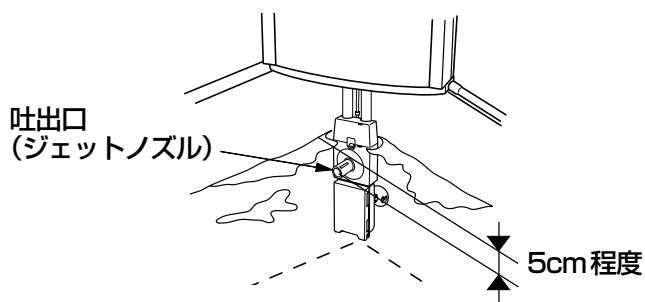
※アフタークリーンするとき、湯の吐出口（ジェットノズル）から出る泡の量が少なくなってきた場合は、浴水の循環量が減少していて、浄化性能が低下しています。

浴水の循環量がかなり減少している場合は、「管路洗浄」ランプが点灯していなくても（半年が経過する前でも）ろ過材を洗浄してください。それでも改善されない場合は管路洗浄を行ってください。

① 前回の管路洗浄を行ってから半年経過すると、「管路洗浄」ランプが点灯する



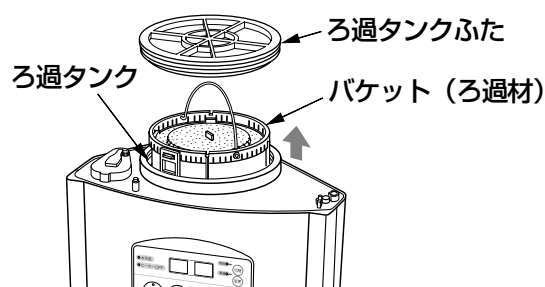
② 「運転」キーを押して運転を停止し、漏電保護リレーのプラグを抜いてから、浴水を吐出口が水面に出ない程度まで抜く



※管路洗浄は、40℃前後の湯で行うのが効果的です。浴槽の湯をそのまま利用してください。

※管路洗浄剤を効率よく使用するため浴水を減らします。
吐出口の上5cm程度になるように浴水を減らしてください。

③ 本体からバケット（ろ過材）を取り出し、ろ過タンクふたを閉める

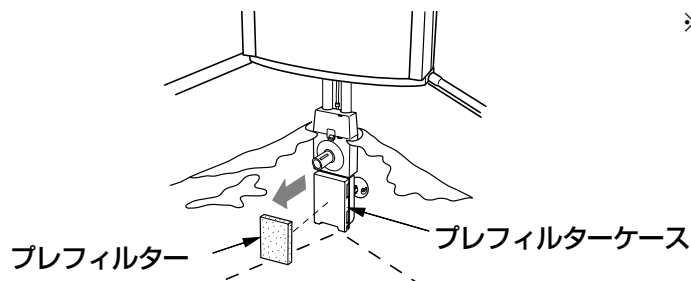


※ろ過タンクふたの開閉には付属のハンドルを使用してください。

ハンドルの使いかたは **運転のしかた** 手順④を参照してください。（14 ページ）

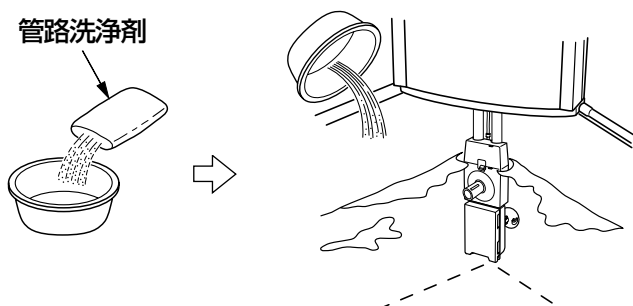
※ろ過タンクの中に毛髪やごみなどが落ちている場合は、拾い出してください。

- ④ プレフィルターケースからプレフィルター（スポンジ）を取り出し、空のプレフィルターケースを取り付けておく



※浴槽底に沈んだ洗浄剤を吸い込みやすくするために、空のプレフィルターケースを取り付けておいてください。

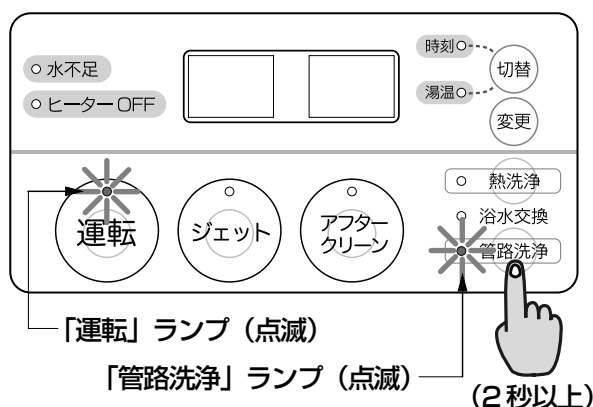
- ⑤ 当社専用の管路洗浄剤 1 袋を、溶かしてから浴槽に入れる



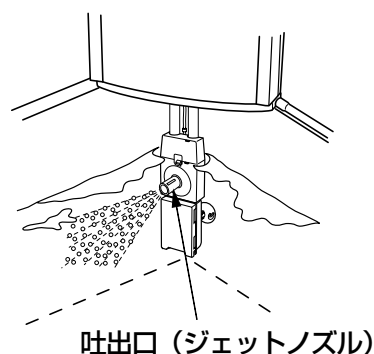
※洗面器などの容器に入れ、湯でよくかきまぜて溶かしてください。

- ⑥ 漏電保護リレーのプラグをコンセントに差し込んでから、運転停止状態のまま「管路洗浄」キーを「管路洗浄」ランプが点灯から点滅にかわるまで押し続ける
(2 秒以上長く押す)

「運転」ランプも同時に点滅し、管路洗浄モード運転を開始します。



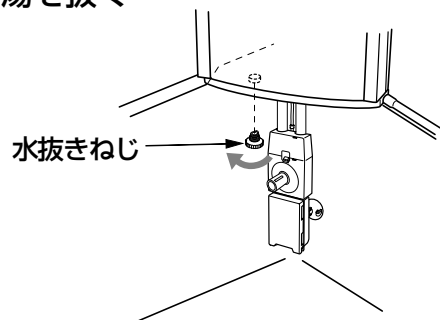
※管路洗浄モード運転は4時間後に自動的に停止します。自動的に停止するまで行ってください。



※管路洗浄モード運転中は、洗浄効果上げるために吐出口から気泡を出しています。

- ⑦ 4 時間後、自動的に停止するので、そのあと漏電保護リレーのプラグを抜く

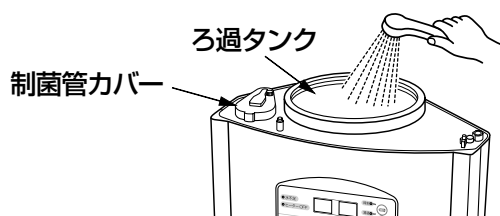
- ⑧ 浴槽の湯を抜いてから、ろ過タンクふた、および本体底の水抜きねじを外して本体内部の湯を抜く



※必ず先に浴槽の湯を抜いてから、ろ過タンクのふたと水抜きねじを外してください。

※水抜きねじは、手でゆるまない場合はマイナスドライバーなどを使用してください。

- ⑨ ろ過タンクの中を洗う



※ろ過タンクの中に毛髪やごみなどが落ちている場合は拾い出してから、シャワーなどを使用して中の汚れを洗い流してください。

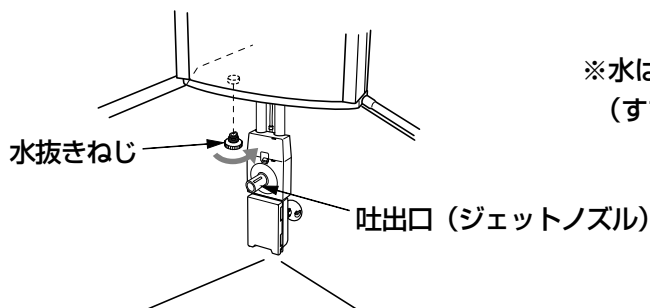
※制菌管カバーなど、タンク周辺に水をかけないように注意してください。

- ⑩ 浴槽、吸排ユニットを洗う

※吸排ユニットのカバーは、取り外して洗ってください。

(取り外しかた・洗いかたは【浴水交換】 吸排ユニットの洗浄方法 参照…30 ページ)

- ⑪ 吸排ユニットをもとにもどし、水抜きねじ、ろ過タンクふたを取り付け、浴槽に水をはる（すすぎ洗い運転の準備）



※水は、吐出口がかくれるまではってください。
(すすぎ洗いは水でかまいません。)

- ⑫ 漏電保護リレーのプラグをコンセントに差し込み、運転停止状態のまま「管路洗浄」キーを「管路洗浄」ランプが点滅するまで押し続ける（2 秒以上長く押す）
…30 分間のすすぎ洗い運転

※すすぎ洗いも管路洗浄モード運転で行ってください。

- ⑬ 30 分間のすすぎを行ったら、「運転」キーを押して停止する

※管路洗浄モード運転は、4 時間経過していなくても「運転」キーを押すと停止します。

- ⑭ 漏電保護リレーのプラグを抜いてから、浴槽および本体内部の水を抜き、ろ過タンクの中・浴槽・吸排ユニットをきれいに洗う（手順⑧～⑩参照）
洗ったあと、水抜きねじを取り付けておく（手順⑪参照）

以上の手順で管路洗浄は完了です。洗浄（交換）したろ過材、清掃したダブル制菌管ユニットおよびプレフィルターをセットし、浴槽に湯をはり、運転を再開します。

※本機は自吸式ポンプを採用していますので、お手入れのあとなど通常はろ過タンクに水をはる必要はありません。

※運転後、ろ過タンクふたおよびダブル制菌管ユニットのまわりから水がもれていないことを確認したあと、トップカバーを取り付けてください。また、水抜きねじの所から水がもれていないことを確認してください。

ご注意

- 管路洗浄は、必ず管路洗浄モードで行ってください。
「運転」キーを押して通常の運転で管路洗浄を行うと、本機の故障の原因になります。
- 管路洗浄に使用する洗浄剤は、当社専用の管路洗浄剤を使用してください。
※当社専用の管路洗浄剤については、本機をお買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 管路洗浄モード運転は、「管路洗浄」ランプが点灯していないときでもできます。点灯しているときと同様の手順で行ってください。
- 管路洗浄モード運転を途中で中止する場合は、「運転」キーを押してください。
（「管路洗浄」キーを押しても中止できます。）
- 「管路洗浄」ランプは、管路洗浄モードで10分以上運転が行われると運転停止時に消えます。消えてから約半年後（180日後）に再び点灯します。
- 「管路洗浄」ランプ点灯時に、「熱洗浄」ランプまたは「浴水交換」ランプが同時に点灯している場合は、管路洗浄モード運転を行うと、どちらのランプも消えます。（管路洗浄を行えば、自動熱洗浄を行う必要はありません。次回のお手入れ時期に行ってください。）

⚠ 注意



当社専用の管路洗浄剤と他の洗浄剤を併用しないでください。
危険な場合や、効果が減少したり本機の故障の原因になります。



管路洗浄剤を使用する前に、洗浄剤の袋に記載されている注意書きをよくお読みください。
誤った取り扱いを行うと、事故につながるおそれがあります。

〔ろ過材の洗浄と交換〕

活性炭は、半年に 1 回洗浄してください。また、1 年に 1 回交換してください。

活性フィルターは、半年に 1 回交換してください。

管路洗浄のときいっしょに行います。管路洗浄時期は、半年（180 日）に 1 回操作パネルの「管路洗浄」ランプが点灯して知らせます。

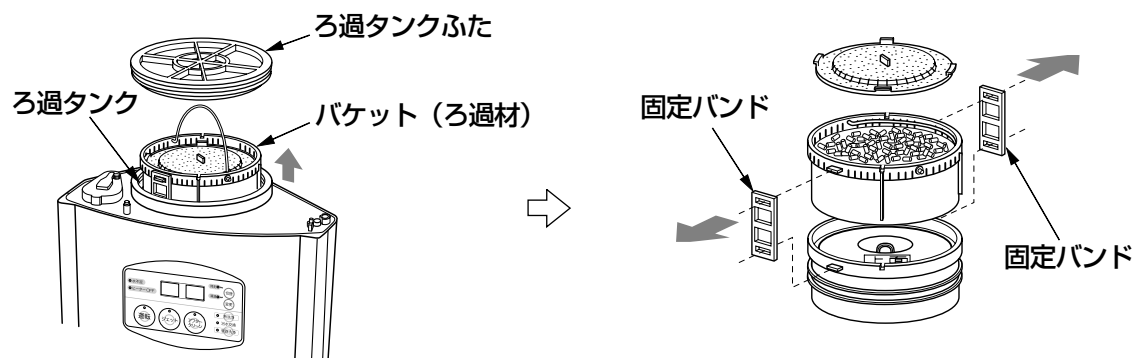
※使用済みの活性炭、および活性フィルター（主にポリプロピレン等の樹脂材料）は、水をよく切り、不燃物として処理してください。なお、詳細は各地域の条例や自治体の廃棄物分類要領にしたがってください。

※ろ過材を交換する場合、新しい活性炭は黒い粉が出ますので、活性炭を容器に移して湯の中で 10 分以上ひたしてから、汚れた活性炭と同じ方法（手順②③の方法）で洗ってください。

（湯にひたすのは、洗うときの活性炭の浮き上がりを防ぐためです。活性炭から気泡が出なくなり、全体が容器の中に沈み込むまでひたしておいてください。）

新しい活性フィルターは洗わずそのまま使用してください。

①（管路洗浄のときにろ過タンクから取り出しておいた）バケットの固定バンドを外す



※管路洗浄を行わず、ろ過材だけを洗浄（交換）する場合は、浴槽の湯を抜き、本体内部の湯を抜いたあとバケットをろ過タンクから取り出してください。

また、ろ過タンクの中や浴槽などもきれいに洗ってください。

（本体内部の湯の抜きかたや、ろ過タンクの洗いかたは【管路洗浄】手順⑧～⑨参照…34 ページ）

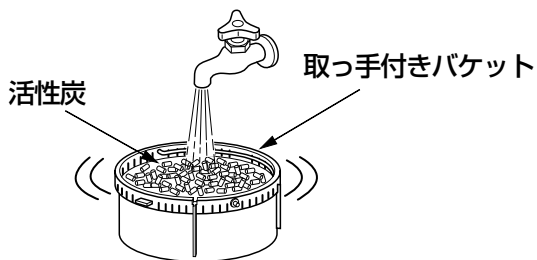
② 活性炭を洗う



容器の中で、粒がくだけないように軽く泳がせるようにして洗います。

※お湯をかえながら、にごりがなくなるまで洗ってください。

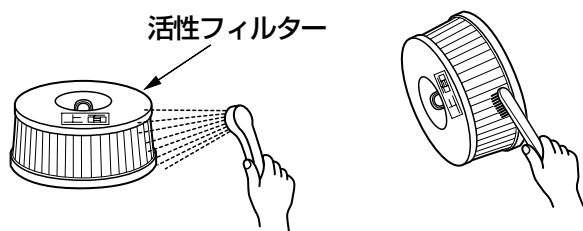
③ 洗った活性炭をバケットに移して、流し洗いをする



きれいに洗ったバケットに活性炭をもどし、水を上から流します。

※水を十分に流して、黒いにごりや微粉末を洗い流してください。

④ 活性フィルターを洗う

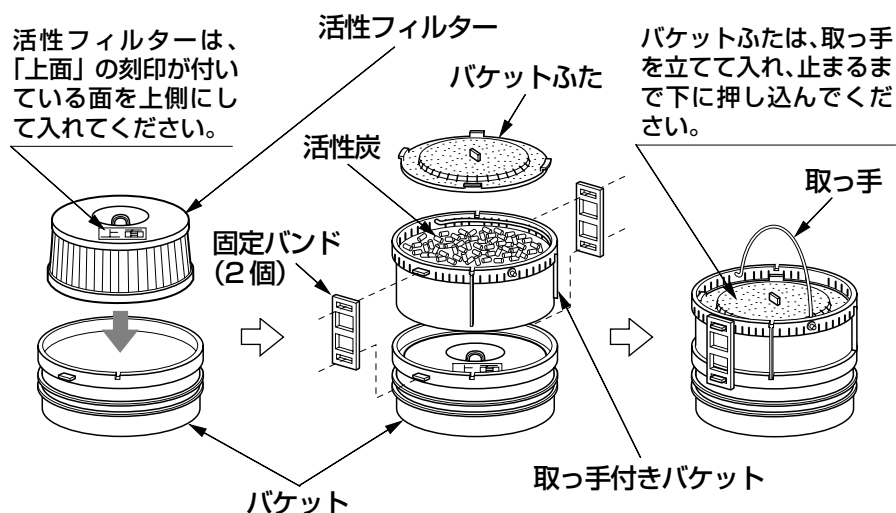


シャワーなどで表面の汚れを洗い流し、歯ブラシなどを使ってすきまの汚れを軽くこすりおとします。

※強くこすりすぎないように注意してください。

※活性フィルターは、通常、半年に1回交換してください。交換時期の前に、浴水の循環量がかなり減少したときに洗います。

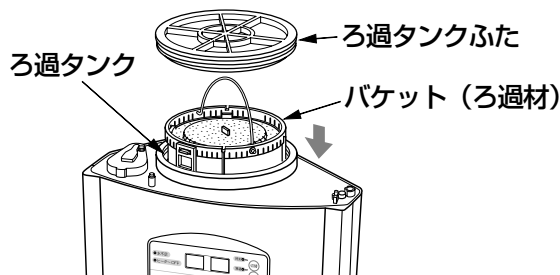
⑤ 洗い終わったろ過材をバケットに入れて組み立てる



・下段のバケットに活性フィルターを、上段の取っ手付きバケットに活性炭を入れて、固定バンドでとめます。

・上段のバケットには、バケットふたをセットします。

⑥ バケット（ろ過材）をろ過タンクにセットし、ろ過タンクふたを閉める



[ダブル制菌管ユニットの清掃と交換]

- ダブル制菌管ユニットの保護管（ガラス管）は、半年に1回清掃してください。

保護管表面が汚れていると、十分な浄化性能が得られません。

管路洗浄のときいっしょに行います。管路洗浄時期は、半年（180日）に1回操作パネルの「管路洗浄」ランプが点灯して知らせます。

※お手入れ時期の前に、浴水がにごってきたり、臭いが出てきた場合は保護管を点検し、汚れているときは清掃してください。

※保護管表面の汚れかたは水質によって異なります。汚れやすい水質の場合は1カ月に1回清掃するなど、適宜清掃時期を早めてください。汚れがひどくなると落ちにくくなります。

- ダブル制菌管ユニットは、3年半に1回交換してください。

ダブル制菌管の寿命は3万時間（約3年半）です。寿命をこえて使用すると、浄化性能に影響します。

交換時期は、3年半に1回操作パネルにチェックメッセージ『55 00』を表示して知らせます。

※『55 00』が表示されていて、交換までに日数がかかり、そのあいだ操作パネルの表示を通常の表示にもどす場合は、『55 00』表示の一時的な消しかたを参照してください。（40ページ）

※使用済みのダブル制菌管ユニットは、蛍光灯と同類のごみとして処理してください。

なお、詳細は各地域の条例や自治体の廃棄物分類要領にしたがってください。

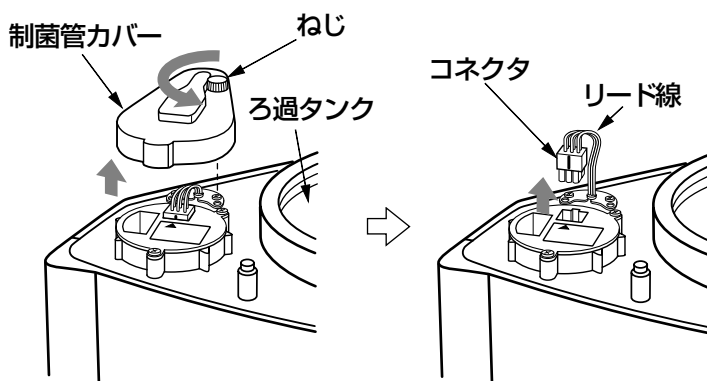
※ダブル制菌管ユニットを交換する場合は手順①～③、⑤⑥にしたがってください。

①「運転」キーで運転を停止し、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜く

※管路洗浄を行わず、ダブル制菌管ユニットだけを清掃（交換）する場合は、浴槽の湯を抜き、本体内部の湯を抜いたあとダブル制菌管ユニットを本体から取り外してください。

（本体内部の湯の抜きかたは【管路洗浄】手順⑧参照…34ページ）

② 制菌管カバーを取り外し、コネクタを抜く



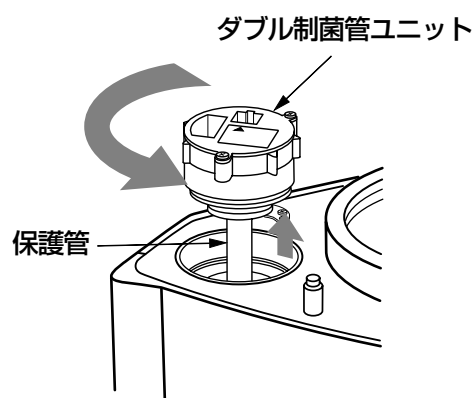
ろ過タンク左側の制菌管カバーは、ねじをゆるめてから、上にあげて外します。

※ねじは、ゆるめるだけで抜く必要はありません。

コネクタは、上に抜きます。

※リード線を持たないでください。

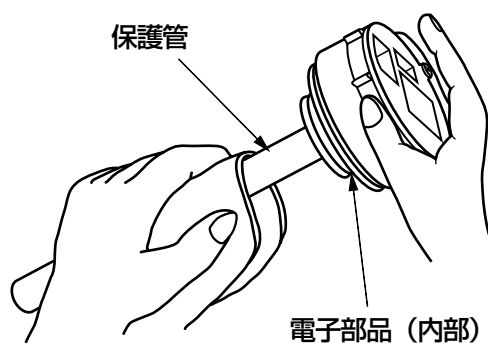
③ ダブル制菌管ユニットを回して、本体から取り外す



※ダブル制菌管ユニットの保護管はガラスです。
割れやすいので、真上にゆっくり抜いてください。

※運転停止直後は熱いので、保護管に直接触れない
ように注意してください。

④ ダブル制菌管ユニットの保護管（ガラス管）表面の汚れを、湿らせたやわらかい布で
ふきとる



※保護管は汚れが付きやすいので、直接手で触れな
いください。

※水洗いしないでください。内部の電子部品がぬれ
ると故障の原因になります。

※汚れが落ちにくいときは、浴槽用洗剤を少量使用
して汚れをふきとってください。

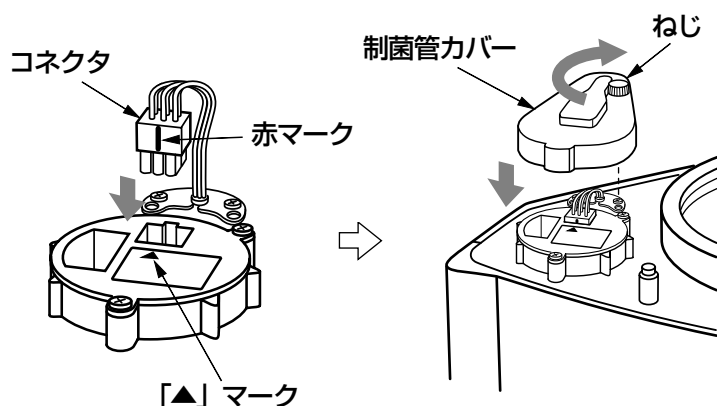
⑤ 清掃（交換）したダブル制菌管ユニットを本体に取り付ける



※ダブル制菌管ユニットは止まるまでしっかりと回
してください。

確実にしまっていないと、手順⑥で制菌管カバー
が取り付けられません。

⑥ コネクタを止まるまでしっかりと差し込み、制菌管カバーを取り付ける

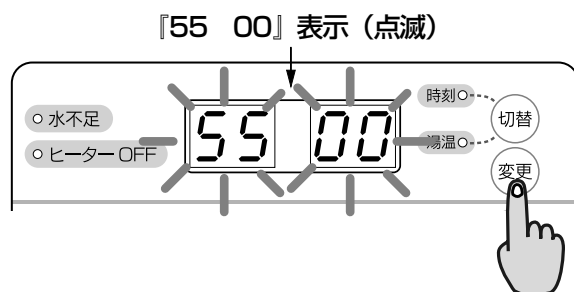


※コネクタを接続するときは向きをまちがえないように注意してください。(コネクタの赤マークを、シールの「▲」マークに向き合わせます。)

操作パネルに表示された『55 00』の消しかた

操作パネルに『55 00』が表示されてから前記手順で《運転停止→漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜く→ダブル制菌管ユニットを交換する→プラグをコンセントに差し込む》を行うと、再び操作パネルに『55 00』が表示されます。

このとき「運転」キーを押す前に「変更」キーを押してください。『55 00』表示が消え、次の表示は3年半後となります。



※必ず「運転」キーを押す前に「変更」キーを押してください。

※正しい手順で「変更」キーが押されないと、『55 00』表示が消えなかったり、消えても10日後に再び『55 00』が表示されます。その場合は、下記の操作を行って表示を消してください。

- ①「運転」キーで停止 ⇒ ②漏電保護リレーのプラグを抜く ⇒ ③5秒以上経過後、再び漏電保護リレーのプラグを差し込む ⇒ ④「変更」キーを押す

『55 00』表示の一時的な消しかた

『55 00』が表示されていて、ダブル制菌管ユニットの交換までに日数がかかり、そのあいだ操作パネルの表示を通常の「時計表示」または「湯温表示」にもどしたい場合は、「変更」キーを押してください。

10日間通常の表示になります。(10日後に再び『55 00』が表示されます。)

ご注意

- ダブル制菌管ユニットの上部周辺（コネクタ部等）は、ぬらさないでください。
- 運転後、ダブル制菌管ユニットの周辺から水がもれていないことを確認してください。
- 交換用ダブル制菌管ユニットについては、本機をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告



禁 止

点灯中のダブル制菌管は紫外線を発生していますので、絶対に直接肉眼で見ないでください。
目の痛みや視力障害の原因になります。

ダブル制菌管の光を皮膚に直接当てないでください。
皮膚の炎症を起こす原因になります。

⚠ 注意



接触禁止

運転中および運転停止直後は、熱いのでダブル制菌管ユニットに触れないでください。取り外す場合は、手袋や布などを使用してください。
やけどのおそれがあります。



禁 止

ダブル制菌管ユニットは、落としたり、物をぶつけたり、無理な力を加えたり、傷をつけたりしないでください。
割れて、ケガ、故障の原因になります。



必ず実行

使用済みのダブル制菌管ユニットは、割らずに廃棄してください。
ケガの原因になります。

[漏電保護リレーの点検]

安全のため、漏電保護リレーは、1 カ月に 1 回以上の動作確認を行ってください。

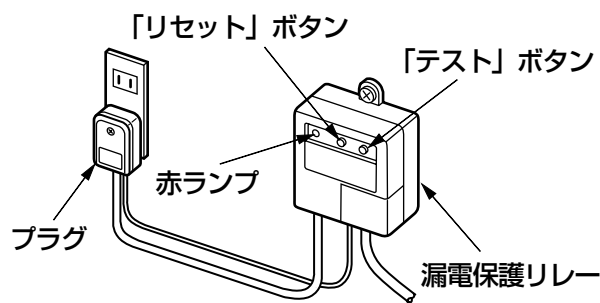
漏電保護リレーは、漏電したり、本体が転倒したり、ヒーター制御回路が故障したときなどに、事故を防ぐため電源をもとから切る働きをします。

※漏電保護リレーの点検のとき、同時に漏電保護リレーのプラグがコンセントにしっかり差し込まれているか、またほこりが付着していないか等を確認してください。

① 「運転」 キーを押して、運転を停止する

② 漏電保護リレーの「テスト」 ボタンを押し、「異常」を示す赤ランプが点灯することを確認する

同時に、操作パネルの表示が消えて、本機への通電が停止されたことを確認する



③ 漏電保護リレーの「リセット」 ボタンを押し、「異常」を示す赤ランプが消えることを確認し、「運転」 キーを押して、運転を再開する

※手順①～③の動作に異常があれば、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜き、販売店にご連絡ください。

【長期間ご使用にならないとき】

1週間以上使用しないときは、管路洗浄を行い、本体内部の水を抜いたあとろ過タンクの中を乾かしておきます。

運転を再開するときは、同様に管路洗浄を行い、新しいろ過材をセットしてください。

（【管路洗浄】参照…32 ページ）

汚れたまま、あるいは水が入ったままで放置しておく、使用を再開したときの悪臭の原因になったり、疾病（細菌感染等）を起こす原因になります。故障の原因にもなります。

また、冬期凍結のおそれがある地域では、本体内部の水を抜かずに放置して内部が凍結すると、故障の原因になります。

※冬期凍結のおそれがある地域の場合、管路洗浄が終わった状態（本体内部の水抜きが終わった状態）のあと、ろ過タンクふたを外した状態で本体をさかさまにし、内部に残っている水を完全に抜く必要があります。お買い上げの販売店にご連絡ください。

⚠ 警告



必ずプラグを抜く

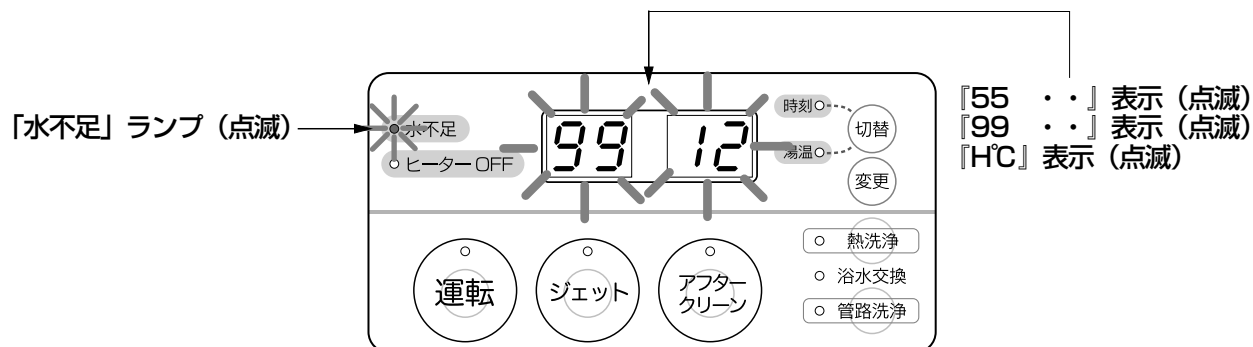
本機を長期間使用しないときは、安全のため漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いておいてください。

ほこりなどがたまり、火災の原因になります。

こんなときには

【チェックメッセージが表示された】

本機に異常が発生した場合、操作パネルに下図のような**チェックメッセージ**が表示されます。それぞれの表示にしたがった処置を行ってください。



「水不足」ランプ（点滅）

- 運転開始直後（約3分後）であれば、ろ過タンクの水はりが不十分な場合があります。もう一度「運転」キーを押してください。
再度「水不足」ランプが点滅した場合は、ろ過タンクに水をはり直してから運転を繰り返してください。（**運転のしかた** **ご注意** 欄参照…15ページ）
- 運転中に「水不足」ランプが点滅した場合は、配管の途中でエアーが入ったか、浴槽の湯が抜けた可能性があります。
ホースが抜けていないか、浴槽の栓が外れていないか等を確認してください。

『H℃』表示

追い焚き等により、湯温が50℃以上になったためです。『H℃』が表示されたとき電子音が鳴っています。

「運転」キーを押すと音は止まります。浴槽に水を足して温度を下げ、本体の中の湯が冷めるのを待ってから運転を再開してください。

『55 00』表示

ダブル制菌管ユニットの交換時期を知らせる表示です。

新しいダブル制菌管ユニットをご注文のうえ交換してください。

（交換方法および『55 00』表示の消しかたは **お手入れのしかた** 【ダブル制菌管ユニットの清掃と交換】参照…38ページ）

『55 17』表示

お手入れのときなどに、ダブル制菌管ユニットのコネクタまたは内部の保護管割れ検知センサーがぬれたときに表示されます。運転はできません。

漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜き、コネクタおよび接続部は抜いてから、ふいて乾燥させてください。保護管割れ検知センサーは、次の手順でふいて乾燥させてください。（どちらも **お手入れのしかた** [ダブル制菌管ユニットの清掃と交換] 参照…38 ページ）

※制菌管は汚れが付きやすいので、直接手で触れないでください。

《ダブル制菌管ユニット》

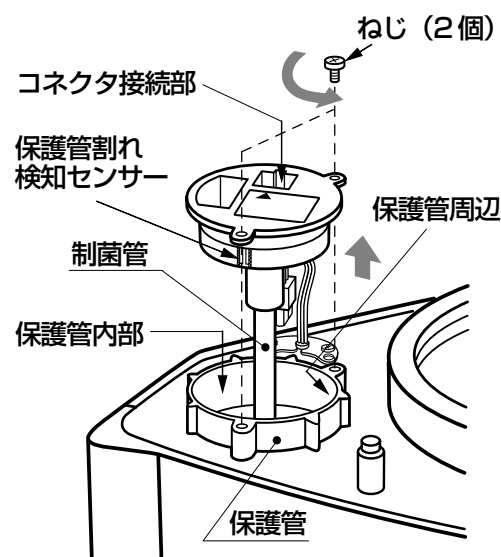
①浴槽および本体の湯を抜いてから、制菌管カバーを取り外し、コネクタを抜く。

②右図の2カ所のねじを外してから制菌管を取り出し、保護管割れ検知センサーや周辺のぬれている部分を、乾いた布などでふきとり乾燥させる。

※保護管周辺もぬれている場合は、ふいてから乾燥させてください。また、保護管内部（ガラス管の内側）がぬれている場合は、取り外して乾燥させてください。（保護管を取り外す場合は、**お手入れのしかた** [ダブル制菌管ユニットの清掃と交換] の手順にしたがってください。）

③乾燥させたあと、もとにもどし、運転を再開する。

※再度『55 17』が表示された場合は、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。



『55 20』表示

『55 36』表示

本体内部・吸排ユニット・ホースなどの管路が汚れていたり、浴水の循環量が異常に少ないときなどに、安全装置が働いて表示されます。『55 20』表示は、運転していますが保温機能は停止しています。『55 36』表示は、運転できません。

『55 20』『55 36』表示は、一度、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて5秒以上経過してから再び差し込むと消えます。

運転を開始し、「アフタークリーン」キーを押して、湯の吐出口（ジェットノズル）から泡が出ない場合は、プレフィルターケースの湯の吸入口がタオルなどでふさがっていないか、プレフィルターが汚れで目が詰まっていないか、ホースが途中でつぶれたり、折れたりしていないか確認してください。どちらでもない場合は、ろ過材の洗浄および管路洗浄を行ってください。

※上記処置後、再度表示された場合は販売店にご連絡ください。

『55 21』表示

ダブル制菌管ユニットのコネクタが外れているか、逆の方向に差し込まれていると表示されます。運転は行われています。

運転を停止し、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて、ダブル制菌管ユニットのコネクタの接続を確認してください。コネクタの赤マークをシールの「▲」マークに向きを合わせ、止まるまでしっかりと差し込みます。

(**お手入れのしかた** 【ダブル制菌管ユニットの清掃と交換】 手順⑥参照…40 ページ)

※『55 21』表示は、一度、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて5秒以上経過してから再び差し込むと、正常になっている場合は消えます。上記処置後、再度表示された場合は販売店にご連絡ください。

『55 22』表示

制菌管カバーが正しい位置に取り付けられていないと表示されます。運転は行われています。

正しい位置に取り付け直してください。

(**お手入れのしかた** 【ダブル制菌管ユニットの清掃と交換】 手順⑥参照…40 ページ)

※『55 22』表示は、一度、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて5秒以上経過してから再び差し込むと、正常になっている場合は消えます。上記処置後、再度表示された場合は販売店にご連絡ください。

『99 ・・』表示

『99 ・・』が表示された場合は、本機の故障が考えられますので、販売店にご連絡ください。

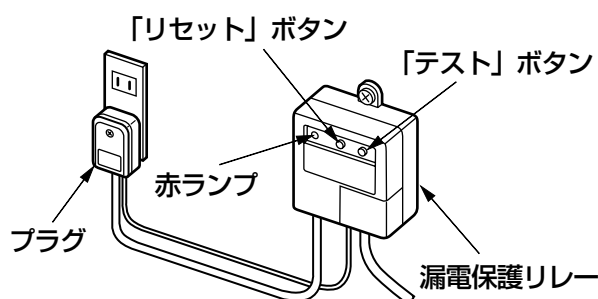
※『99 ・・』が表示され運転が続けられている場合は、修理するまで入浴は可能ですが、そのあいだ保温機能は停止していることがあります。入浴する場合は、他の追い焚き装置などを使用してください。

[漏電保護リレーの赤ランプ点灯]

「テスト」ボタンを誤って押していないのに、漏電保護リレーの「異常」を示す赤ランプが点灯し、操作パネルの表示が消えて本機への通電が停止されている場合は、下記のことを確認してください。

- 本体を傾けたか、衝撃を加えた。
…外観および装置に異常がなければ、「リセット」ボタンを押して、運転を再開してください。
- ダブル制菌管ユニットのコネクタがぬれている。
…お手入れなどでぬらした場合は、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜き、コネクタを抜いてから、ふいて乾燥させてください。

(ダブル制菌管ユニットのコネクタは **お手入れのしかた** [ダブル制菌管ユニットの清掃と交換] 参照…38ページ)



※上記原因以外の場合は、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

[停電があった]

停電があったり、漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いたりすると、時計機能が停止され、時刻が合っていなかったり、『0:00』にもどったりします。

停電等で通電が停止された場合は、正しい時刻に合わせ直してください。

(**時計の合わせかた** 参照…16ページ)

※通電が停止されても設定温度は記憶されています。

[浴水が冷たい・温まらない・温まりすぎる]

正常に運転されているが、浴水がまったく保温されていない

“ヒーター OFF 機能” を設定していないか確認してください。

(**湯温の設定** “ヒーター OFF 機能” の使いかた 参照…19 ページ)

※設定していない場合は、故障が考えられますので、販売店にご連絡ください。

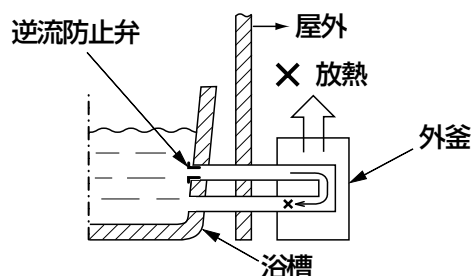
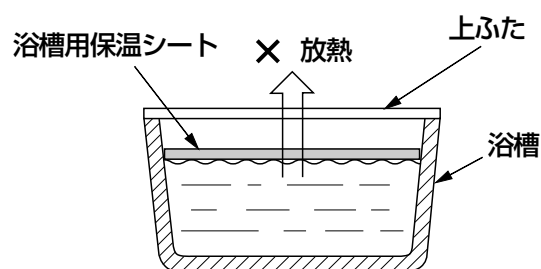
設定温度より低めの温度に保温はされているが、設定温度まで上がらない

- 浴槽の大きさ、浴室の保温性および季節などによっては浴水を設定温度に保温できないことがあります。

他の熱源で追い焚きするか、給湯してください。

※浴水を冷めにくくするために、浴槽用保温シートや逆流防止弁(外釜を使用しているお風呂の循環による放熱を防ぐための弁)などが市販されています。ご利用ください。

逆流防止弁は、上の穴に付けるものと下の穴に付けるものの2通りの方式があります。逆流防止弁に付いている説明書をよくお読みのうえご使用ください。



- 浴水の補給に水を使われますと、浴水の温度を上げるのに時間がかかります。
- 他の熱源で追い焚きするか、給湯してください。

夏期、浴水が設定温度より上がる

保温性のよい浴室などでは、浴水が設定温度より上がる場合があります。循環ポンプ内部の熱により浴水が温められるもので、故障ではありません。

浴室の換気をよくしたり、入浴時に水を足すなどして湯温を下げてください。

【2日経過しても、「熱洗浄」ランプが点灯しない】

自動熱洗浄を行ってから2日経過する前に“管路洗浄モード”運転を10分以上行くと、「熱洗浄」ランプは“管路洗浄モード”運転を行った日から2日後に点灯します。

【3週間経過しても、「浴水交換」ランプが点灯しない】

浴水交換を行ってから3週間経過する前に“管路洗浄モード”運転を10分以上行くと、「浴水交換」ランプは“管路洗浄モード”運転を行った日から3週間後に点灯します。

【3週間経過する前に、「浴水交換」ランプが点灯した】

「浴水交換」ランプが点灯していないときに浴水交換を行っても、本機は浴水交換したことを判断できません。「浴水交換」ランプが点灯しているときに浴水交換を行うと、その日から3週間後に再度点灯します。

【「浴水交換」ランプ点灯中に浴水交換を行ったが、ランプが点灯したままである】

「運転」キーで運転を停止して浴水交換を行ったが、10分以内で終了した。
または、「運転」キーで運転を止めずに、直接漏電保護リレーのプラグをコンセントから抜いて、浴水交換を行った。（**お手入れのしかた**【浴水交換】の **ご注意** 欄参照…29ページ）

【ときどき運転が止まる】

安全装置の動作確認のために、毎日午前2時と午後2時などに数回、約5秒間運転が停止します。故障ではありません。

[ご家庭のアンペアブレーカーや 配線用遮断器がときどき切れる]

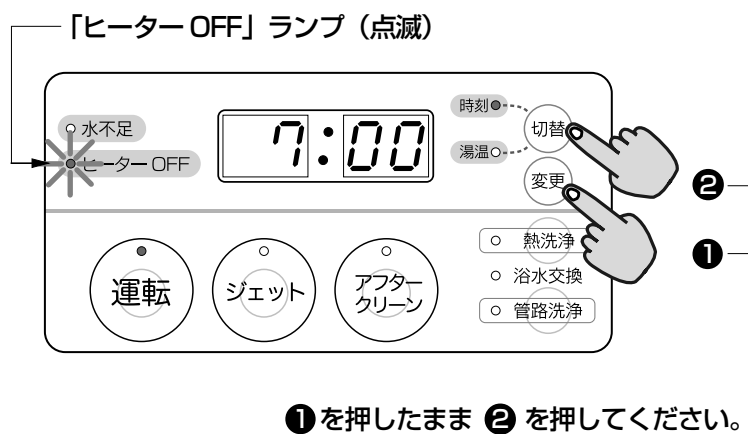
本機を運転中に、ドライヤーやホットプレート、電子レンジなど消費電力の大きい電気器具を使用したときに、分電盤のアンペアブレーカーや配線用遮断器が切れる場合は、ご家庭の契約アンペアをふやしたり専用回路を設ける必要があります。

ただし、これらの電気器具を使用する時間が短時間（1時間以内）の場合は、“ヒーター・一時停止機能”をセットすることにより、本機の消費電力を100W程度におさえ、本機の運転を続けたまま、他の電気器具の使用が可能になります。

※ “ヒーター・一時停止機能” をセットすると、保温機能が停止するので、そのあいだ湯温は少しさがります。

“ヒーター・一時停止機能” のセットのしかた

運転中に、「変更」キーを押したまま「切替」キーを押す（いっしょに押す）



「ヒーターOFF」ランプが点滅し、保温機能が1時間停止します。

※ 1時間後、自動的に通常の運転にもどります。

※ “ヒーター・一時停止機能” を途中でやめる場合は、「変更」キーを押してください。通常運転にもどります。（「変更」キーは、2秒以上押さないでください。また、他のキーを押しても解除されますが、運転状態が、押したキーの操作通りに変更されますので注意してください。）

交換部品のお知らせ

定期的に交換を必要とする消耗品（プレフィルター、ろ過材、ダブル制菌管ユニットなど）とは別に下記部品も交換を必要とする場合がありますので、あらかじめご了承ください。
交換時期は、浴水に使われている水の硬度（カルシウム等の成分量）や使用条件などによって異なります。

- ・『循環ポンプ』
- ・『流路切換え用バルブ』
- ・吸排ユニット固定用の『吸盤』
- ・ろ過タンクふたの『パッキン』

※本機の無料修理保証期間（お買い上げ日から１年間）経過後の交換は有料となりますので、ご了承ください。
（無料修理保証期間等、製品の保証については、巻末の **アフターサービスについて** および保証書をお読みください。）

仕 様

電 源	AC100V (50 / 60Hz)
消 費 電 力	800W
ヒ ー タ ー	セラミックヒーター（間接加熱方式）：定格 700W
温 度 調 節 範 囲	36℃～45℃（ヒーター OFF 機能付き）
浄 化 装 置	トリプル処理装置 ●ダブル制菌管 ※2波長(185nm・254nm)の紫外線による24時間連続照射 ●自動熱洗浄 ※2日に1回、最高70℃の熱水により、ろ過材・本体管路などを自動的に熱洗浄 ●物理ろ過 ・プレフィルター ・抗菌活性炭 ・活性フィルター
安 全 装 置	1. 循環ポンプ空運転防止装置 2. 循環ポンプロック時保護装置 3. ヒーター空焚き防止装置 4. ヒーター回路異常検知装置 5. 水不足センサー異常検知装置 6. 湯温過昇防止装置 7. 湯温センサー異常検知装置 8. ダブル制菌管異常検知装置 9. 保護管割れ検知装置 10. 漏電防止装置 11. 過電流防止装置 12. 転倒時安全装置 13. プラグ過熱防止装置
浴 槽 容 量	300リットルまで
入浴人数(1日のめやす)	4人まで（入浴方法により異なる）
外 形 寸 法	469（高さ）×380（幅）×259（奥行き）mm
本 体 質 量	約14kg（ろ過材を含む）

製品仕様は改良のため、ことわりなく変更することがあります。ご了承ください。

アフターサービスについて

製品の保証について

1. 本機には保証書がついています。
保証書は、お買い上げの販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、内容をよくお読みのうえ大切に保管してください。
2. 本機の無料修理保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
保証書の記載内容により、お買い上げの販売店が修理いたします。くわしくは、保証書をごらんください。
3. 保証期間中の修理など、アフターサービスについておわかりにならない場合は、お買い上げ販売店、または蛇の目シン工業株式会社・お客様相談室にお問い合わせください。
4. 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、有料で修理いたします。
5. ご転居、ご贈答などで、お買い上げの販売店に修理を依頼することができない場合は、蛇の目シン工業株式会社・お客様相談室にお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、本機の型式「BL34」をお知らせください。

補修用性能部品について

本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後7年間です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

お問い合わせは

販売店

電話 ()

蛇の目シン工業株式会社

お客様相談室

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

電話 042-661-2600

☎フリーダイヤル 0120-026-557

《お客様相談室受付時間》

平日 9:00～12:00 13:00～17:00

(土・日・祝日、年末年始を除く)

ホームページ

<http://www.janome.co.jp>

メールでのお問い合わせ

customer@gm.janome.co.jp

蛇の目マシン工業株式会社
〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地